平成15年度 室内空気環境に関する実証実験および調査業務

平成16年3月

(財)住宅リフォーム・紛争処理支援センター

# 

第	1章	氢	え 具・	住宅	設	備	等	こま	己[	因了	<b>5</b>	る <sub>1</sub>	化	学	物	質	の	影	響	G,	村	信	t													
1	۱. ١	実大	実験	室を	用し	ハた	家:	具	か	5	の	朩	ル	厶	ア	ル	デ	۲	۲	及	び	٧	0	C	放	散	試	験								
	(	1)	試験	方法		• •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
			実	大実	験化	主宅	<del>,</del> ග	概	要		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
			ラ	ージ	チ	ャン	バ	<u> </u>	の	概	要		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2
			設	置家	具	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2
			実	験条	件	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4
			実	験ス	ケ	ジュ	. —	ル		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4
			木.	ルム	アノ	レデ	Ľ	ド	及	び	٧	0	C	の	測	定	(	ア	ク	テ	1	ブ	サ	ン	プ	IJ	ン	グ	)		•	•	•	•	•	5
	(	2)	試験	結果			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5
			換	気量	測記	定結	果	:	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5
			温	度・	湿质	度環	境	į,	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	6
			実	験室	の <u>3</u>	灵空	質	濃	度	測	定	結	果	(	ア	ク	テ	1	ブ	サ	ン	プ	IJ	ン	グ	)		•	•	•	•	•	•	•	•	7
			実	験室	の <u>3</u>	灵空	質	濃	度	測	定	結	果	(	パ	ツ	シ	ブ	サ	ン	プ	IJ	ン	グ	)		•	•	•	•	•	•	•	•	•	9
			結	果の	考察	察	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	11
			ま	とめ			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	13
2	2 . 1	化学	物質	の放	散	こ与	iえ	る	温	度	• ;	湿	度	•	日	射	•	I	ア	コ	ン	除	湿	の	影	響										
	(	1)	温度	影響	の	実験	方	法		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	14
	(	2)	湿度	影響	のヨ	実験	方	法		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	14
	(	3)	日射:	影響	の	実験	方	法		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	15
	(	4)	エア	コン	除》	显影	響	の	実	験	方	法		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	16
	(	5)	ホル	ムア	ル:	デヒ	ド	及	び	٧	0	C	の	測	定	(	ア	ク	テ	1	ブ	サ	ン	プ	IJ	ン	グ	)		•	•	•	•	•	•	16
	(	6)	実験	結果			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	16
			温	度影	響(	の実	:験	結	果		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	16
			湿	度影	響(	の実	:験	結	果		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	19
			日	射影	響(	の実	:験	結	果		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	• :	21
			エ	アコ	ンド	余湿	影	響	の	実	験	結	果		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	• :	23
			ま	とめ			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	• 2	24
3	3.1	暖房	機器	から	ወ1	化学	物	質	放	散	試	験																								
	(	1)	暖房	機器	のf	士様	<u> </u>	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	• ;	25
	(	2)	実験	スケ	ジニ	<u> </u>	· Jレ	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	• ;	25
	(	3)	ホル	ムア	ル:	デヒ	ド	及	び	٧	0	C	の	測	定		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	• ;	25
	(	4)	試験	結果			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	• :	26
			温	度の	影響	擊	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	• ;	26
			実	験室	の.	二酸	化	炭	素	濃	度		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	• ;	27
			使	用電	気制	料の	確	認		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	• 2	27
			亦	ルム	アノ	レデ	Ľ	ド	及	び	٧	0	C	濃	度		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	• ;	28
			ま	とめ			•	•		•		•		•		•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	• 2	29

第2章 換気設備の適切な設計	・施工に関する調査	
1 . 天井裏等対策の実態調査』	及びクロルピリホスの使用禁止に	伴う代替措置状況の実態調査
(1)調査の概要・・・・		• • • • • • • • • • • 30
(2)回答のあったメーカ‐	-の概要 ・・・・・・・・・	• • • • • • • • • • • 32
(3)調査結果・・・・・		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •
居室の対策・・・		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •
クロルピリホスの値	使用禁止に伴う床下の防蟻対策	• • • • • • • • • • • 34
天井裏等の対策		• • • • • • • • • • • • 35
2.主要換気設備メーカーへの	のヒアリング調査結果	
(1)改正基準法施行以降の	の換気設備の施工状況 ・・・・	37
(2)換気設備に関する技術	<b>村開発動向・・・・・・・・</b>	37
3 . 換気設備部品の性能 風』	■測定方法確認実験	
(1)試験方法・・・・・		38
換気設備部品の風	量測定用換気風洞 ・・・・・	38
風量測定機器 •		39
給排気ロデバイス		41
測定方法・・・・		• • • • • • • • • • • 45
(2)測定結果・・・・・		• • • • • • • • • • • 45
(3)まとめ ・・・・・		53
風量測定器の精度確認	忍	53
風量測定器の測定時打	抵抗 ・・・・・・・・・・・	53
4.内部空間からの汚染物質例	侵入に関する実態調査(戸建て住	宅)
(1)内部空間からの汚染物	物質侵入の考え方・・・・・・	• • • • • • • • • • 54
(2)測定対象建物と測定料	伏況・・・・・・・・・・・・	56
(3)測定結果・・・・・		57
5 . 天井裏等の建物内部空間が	からの汚染物質の室内侵入に関す	る研究
(1)研究方法の検討・・		58
(2)スライスモデルの設詞	計・・・・・・・・・・・	59
(3)隙間回路の測定方法		60
(4)総隙間量の測定・・		61
(5)今後の予定・・・・		62

# 第1章 家具・住宅設備等に起因する化学物質の影響の検討

#### はじめに

建築基準法改正に伴い、ホルムアルデヒド発散建築材料が等級区分され、等級ごとに使用できる面積に制限がかかることになった。しかし、居住者が住宅内に持ち込んだ家具については、建築基準法の規制対象外であることから、使用する材料により化学物質が発散する可能性がある。本実験では以下の3つの実験を実施し、室内空気質に配慮した設計施工が可能となるための基礎データを蓄積することを目的とする。

実験1 家具からのホルムアルデヒド及びVOC放散試験

実験2 化学物質の放散に与える温度・湿度・日射・エアコン除湿の影響

実験3 暖房機器からの化学物質放散試験

# 1. 実大実験室を用いた家具のホルムアルデヒド及びVOC放散試験

#### (1) 試験方法

# ① 実大実験住宅の概要

床面積12.1m²(8畳、気積V=29m³)の実験室が6部屋連なる実験住宅の4部屋を用いた。この実験住宅は、エアコンを用いて温度制御を行い、インバーター制御の給排気換気扇(第一種換気)により換気量を制御することが可能である。

内装は、床面をフローリング、壁天井を壁紙仕上げ(下地石こうボード)で、一般住宅の内 装仕上げと同等である。

実験室の気密は相当隙間面積で約1cm²/m²であり高気密・高断熱仕様となっている。実大実験住宅の平面図を図1-1及び写真1-1に示す。また実験室詳細を表1-1に示す。

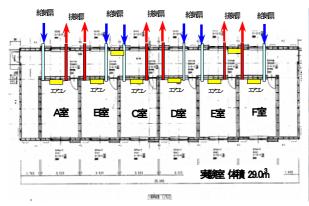


図1-1 実大実験住宅の平面図



写真1-1 実大実験住宅外観

(直射日光の影響を避けるため、雨戸を閉め切って実験を行った。)

表1-1 実験室詳細

実験使用室	A室~D室 4室
実験室寸法	w3.4m×d3.55m×h2.4m 床面積12.1m² 体積29.0m³
内装仕様	壁天井 石膏ボード+壁紙仕上げ
	床 木質フローリング
気密性	相当隙間面積 C=1.0 cm²/m²程度 次世代省エネ基準Ⅲ地域仕様
換気回数	換気扇を用いた強制給排気 0.50~1.0 (回/時)

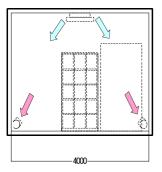
#### ② ラージチャンバーの概要

実験に使用したラージチャンバーは、独立行政法人建築研究所環境実験棟内にあるラージチャンバーを使用した。ラージチャンバーの詳細を表1-2、図1-2及び写真1-2に示す。

表1-2 ラージチャンバーの仕様

床面積A: W5m×D4m=20m<sup>2</sup> 天井高さh=2.7(m)) 室容積V 54(m3)

換気回数(回/h) 0.5 換気量Q(m³/h):27 設定温湿度 28℃ 50%



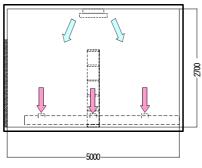




図1-2 ラージチャンバー詳細

(縦断面 横断面)

写真1-2 ラージチャンバー詳細

#### ③ 設置家具

実験室に負荷として設置した家具は、本箱、サイドボード、テーブルセットの3種類とし、それぞれ単独で実験室に設置した場合と、3点セットとして実験室に設置した場合の4条件の実験を実施した。

家具の仕様を表1-3に、本箱の形状を図1-3及び写真1-3に、サイドボードの形状を図1-4及び写真1-4に、テーブルセットの形状を図1-5及び写真1-5に示す。また実験室内の家具の配置を図1-6に示す。

設置実験室	家 具	寸 法 、 表	長面 積 等			材料・塗装仕様
実大実験室		寸 法 (mm)	W : H : D :	1050 1760 350	合 板	JAS2類 Fc2 2.5mm 3プライ(ラワン) ユリア樹脂系接着剤
A 室 床面積 12.1(m <sup>2</sup> ) 気積 29 (m <sup>3</sup> )	本 箱	表面積(m²) 家具表面積/床面積 試料負荷率L(1/m)		11.26 0.93 0.39	塗 料 組 立 用 接 着 剤	ウレタン樹脂系塗料 110g/m2以下 希釈材 ウレタンシンナー 酢酸ピニル樹脂系エマルション形接着剤
実 大 実 験 室		寸 法 (mm)	W : H : D :	1730 782 440	合板	JAS2類 Fc2 2.5mm 3プライ(ラワン) ユリ7樹脂系接着剤
B室 床面積 12.1(m²) 気積 29 (m³)	<b>サイドポード</b>	表面積(m²) 家具表面積/床面積 試料負荷率L(1/m)		8.58 0.71 0.30	塗 料 組 立 用 接 着 剤	ウレタン樹脂系塗料 110g/m2以下 希釈材 ウレタンシンナー 酢酸ピニル樹脂系エマルション形接着剤
<u> </u>			W :	900	<u> </u>	<u>IF 版 C - M 個 船 ポュマルション形 接 宿 剤</u> JAS2類 Fc2 2.5mm
		寸 法 (mm)	H: D:	720 900	合 板	37° ライ(ラワン) ユリア樹脂系接着剤
	テーフ゛ル	表面積(m²) 家具表面積/床面積 試料負荷率L(1/m)		3.79 0.31 0.13	塗 料	りν タン樹 脂 系 塗 料 110g/m2以 下 希 釈 材 ウレタンシンナー
実大実験室			w·	500	組立用接着剤	酢酸ビニル樹脂系エマルション形接着剤
C 室 床面積 12.1(m <sup>2</sup> ) 気積 29 (m <sup>3</sup> )		寸 法 (mm)	W : H : D :	780 558	合 板	JAS2類 Fc2 2.5mm 37*ライ(ラワン) ュリア樹脂系接着剤
X 18 25 ( )	いす 4 脚	表 面 積 (m²) 家 具 表 面 積 /床 面 積 試 料 負 荷 率 L (1/m)		1.76 0.15 0.06	塗料	<sup>りレタン</sup> 樹脂系塗料 110g/m2以下 希釈材 りレタンシンナー
	合 計	表 面 積 (m²) 家 具 表 面 積 /床 面 積 試 料 負 荷 率 L (1/m)		5.56 0.46 0.19	組立用接着剤	酢酸ビニル樹脂系エマルション形接着剤
実大実験室		寸 法 (mm)	W : H : D :	 	合 板	JAS2類 Fc2 2.5mm 37゚ライ(ラワン) ュリア樹脂系接着剤
D室 床面積 12.1(m²) 気積 29 (m³)	3 点 セット	表 面 積 (m²) 家 具 表 面 積 /床 面 積 試 料 負 荷 率 L (1/m)		25.39 2.10 0.88	塗 料 組 立 用 接 着 剤	ウレタン樹脂系塗料 110g/m2以下 希釈材 ウレタンシンナー 酢酸ビニル樹脂系エマルション形接着剤
<u> </u>			W :	1050	<u> </u>	<u> </u>
ラーシ゛チャンハ゛ー		寸法(mm)	₩: D:	1760 350	合 板	37° ライ(ラワン) ユリア樹脂系接着剤
床面積 20.0(m <sup>2</sup> ) 気積 54 (m <sup>3</sup> )	本 箱	表面積(m²) 家具表面積/床面積 試料負荷率L(1/m)		11.26 0.56 0.21	塗 料	ウレタン樹脂系塗料 110g/m2以下 希釈材 ウレタンシンナー
		PA 47 54 PS 4 L ( 1 / III /		V. Z I	組立田接着剤	酢酸ドール樹脂玄 アフルション形接着剤

表1-3 家具の仕様

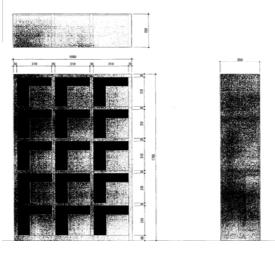


図1-3 本箱 寸法・形状



写真1-3 本箱設置状況

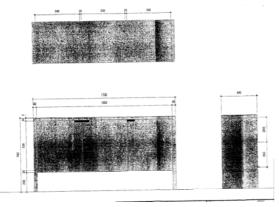


図1-4 サイドテーブル 寸法・形状



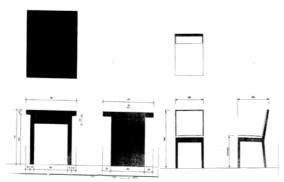


図1-5 テーブルセット 寸法・形状



写真1-5 テーブルセット設置状況

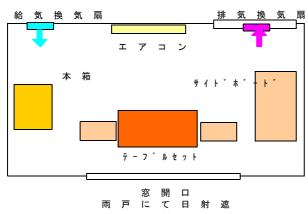


図1-6 家具の配置

#### ④ 実験条件

実験はA室からD室の4部屋を用いて行った。実験条件を表1-4に、温度、換気回数設定を図1-7に示す。

表1-4 実験条件

温度条件 エアコン冷房運転による温度制 28℃設定(冷房運転)

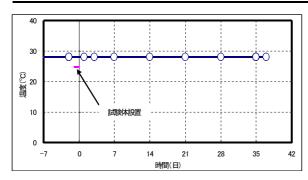
湿度条件 なりゆき

日 射 雨戸締切による遮断

換気条件 換気回数0.5回/hr (給排気換気扇の回転数をインバーター制御し、換気量を決定)

実験期間 5週間(35日)

実験室ごとの家具の設置 A室 本箱1台、B室 サイドボード1台、C室 テーブルセット D室 本箱+サイドボード+テーブルセットの3点セット



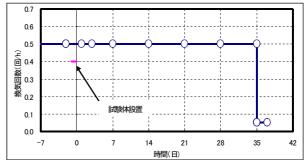


図1-7 温度、換気回数設定

#### ⑤ 実験スケジュール

実験は平成15年8月4日~9月8日までの5週間とした。なお実験開始前は室内を十分に換気し、ホルムアルデヒド濃度及びVOC濃度が低くなるようにした。

室内を十分に換気した後、エアコンにより実験室の温度を一定にし、換気回数が0.5回の状態で24時間一定状態とし、ブランクとなるホルムアルデヒド及びVOC濃度を測定した。

その後、負荷となる家具を設置し、設置後1日目、3日目、7日目、14日目、21日目、28日目、35日目の剛健6回サンプリングを行う。

サンプリングは、実験室内の空気を吸引ポンプを用いて、カートリッジに採取するアクティブサンプリングと、サンプラーを24時間実験室内に暴露し、濃度測定を行うパッシブサンプリングの2種類の方法を用いた。

アクティブサンプリングは、測定日の午後2時から開始した。またパッシブサンプリングはアクティブサンプリング終了後バッジを設置し、24時間暴露した。

なお35日の試験終了後、換気扇を停止し、2日間一定状態とし換気停止状態の室内濃度 も合わせて測定した。測定スケジュールを表1-5に示す。

			<b>3</b>	₹I-0 1L	子彻貝辰	皮測ルへ	ノンユーノ	V			
В	時	8月1日	8月4日	8月5日	8月7日	8月11日	8月18日	8月25日	9月1日	9月8日	9月10日
測定	日数		0	1	3	7	1 4	2 1	2 8	3 5	3 7
温度	(°C )					2	8				
換気回数	( 🛽 / h)					0.5					0.05
A 室	本 箱			0	0	0	0	0	0	0	0
B 室	サイドボード		1	0	0	0	0	0	0	0	0
C 室	テーブル セット	ブランク	家具設置	0	0	0	0	0	0	0	0
D 室	3点 セット			0	0	0	0	0	0	0	0
ラーシ <sup>*</sup> チャンハ <sup>*</sup> ー	本 箱			0	0	0	0	0	0	0	=
<b></b>	考	・◎ :アクティフ <sup>*</sup> サ	ンプリンク゚と パッシ:	プサンプリンク゚の	併用 〇:75	「ティプサ ンプリンク゚					
UH	79	・温度設定:2	8℃ 冷房運転	湿度設定:	A ~ D室 なり	ゆき ラーシ チャ	∨ n ° − 50%				

表1-5 化学物質濃度測定スケジュール

#### ⑥ ホルムアルデヒド及びVOCの測定(アクティブサンプリング)

ホルムアルデヒドの測定は、DNPHカートリッジを用い、流量1.0(L/min)で採気量30(L)とし、二重測定を実施した。

サンプリングしたDNPHカートリッジは高速液体クロマトグラフ(HPLC)で分析を行った。

VOCの測定は、加熱脱着形捕集管(Perkin Elmer製)を用い、流量0.1(L/min)で採気量3 (L)とし、二重測定を実施した。サンプリングした吸着管はガスクロマトグラフ(GCMS)により分析を行った。

空気採取は、実験室中央、高さ120cmの位置とした。

TVOCの算出は、 $\hbar^*$  スクロマトケ うフ (GCMS) の分析結果から、ヘキサンからヘキサデカンの範囲で、50物質の定量合計値 (A) とそれ以外の未知成分の合計量のトルエン換算値 (B) の総計 TVOC=A+B とした。

#### (2) 試験結果

# ① 換気量測定結果 (実大実験住宅における実験室測定)

室内濃度予測では、実験室の換気量を正確に測定する必要がある。

そこで一定濃度法という手法で実験室の換気量を測定し、設置した給排気換気扇のインバーター制御周波数と換気量の関係を求めた。

換気量測定はマルチガスモニターを用い、トレーサーガスにSF6を使用した。

換気量の算出は式1により、室内濃度が一定になるようにトレーサーガスの発生量を調整 し、発生量から換気量を算出するという手法になっている。

$$Q(m^3/hr) = \frac{M(mg/hr)}{C(mg/m^3)} \cdots \neq 1$$

あらかじめ風量計を用いて給排気風量とファンを制御するインバーター周波数の関係を求め、一定濃度法により換気量の確認を行った。

写真1-6に試験実施状況を、図1-8に換気回数測定結果を示す。



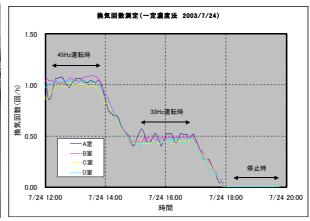


写真1-6 一定濃度法による換気量測定状況

図1-8 換気回数測定結果

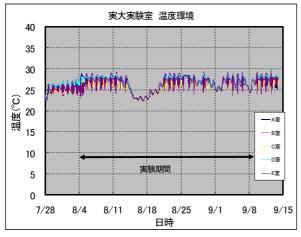
インバーターを用い、給排気換気扇の回転数を制御することで、各実験室の換気回数をほぼ一定に制御することができた。

また実験住宅は高気密仕様となっているため、換気停止状態での換気回数は0.05(回/hr)となり自然換気がほとんどないことも確認できた。

#### ② 温度·湿度環境

図1-9に実験期間中の実大実験室における中央の温度測定結果を、図1-10に湿度測定結果 を示す。実験期間中全室ともエアコンによる冷房運転で、温度設定は28℃とした。

また図1-11に外気温度測定結果とA室温度測定結果の比較、図1-12に外気湿度測定結果と A室湿度測定結果の比較を示す。



実大実験室 湿度データ 100 80 60 8 湿度( 40 C室 実験期間 20 D室 8/11 8/18 8/25 9/15 8/4 9/8 7/28

実験室中央の温度測定結果

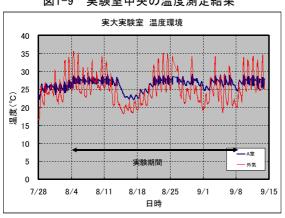


図1-10 実験室中央の湿度測定結果

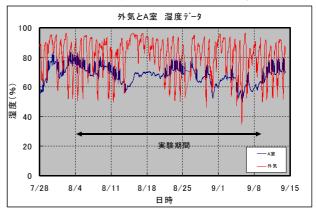


図1-11 外気温度測定結果とA室温度測定結果

図1-12 外気湿度測定結果とA室湿度測定結果

8月中旬の外気温度の低下に伴い、室内温度も低下する時期が約1週間ほどみられるが、 概ね日中はエアコンによる冷房運転により、室内は28℃になっていることが確認できた。 図1-13に実験期間中のラージチャンバーにおける中央の温度測定結果を、図1-14に湿度測 定結果を示す。

実験期間中において、28℃、50%の環境でほぼ一定になっていることが確認できた。

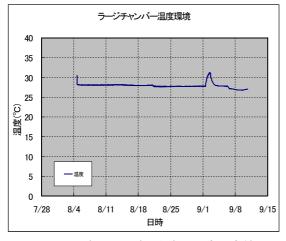


図1-13 ラージチャンバー中央の温度測定結果

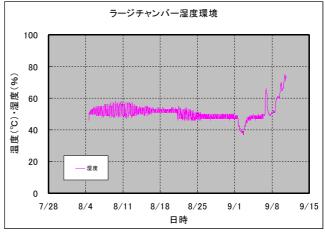


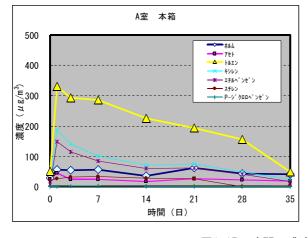
図1-14 ラージチャンバー中央の湿度測定結果

#### ③ 実験室の空気質濃度測定結果 (アクティブサンプリング)

A室(本箱設置)の室内空気濃度測定結果を表1-6に、時間-濃度曲線を図1-15に示す。 なお表中の赤塗り部分は厚生労働省指針値を超えている結果を示す。

T-V0C 本箱 温度 湿度 ホルム アセト トルエン 抄い エチルヘ゛ンセ゛ン スチレン P-ジクロロベンゼン  $(\mu g/m3)$  $(\mu g/m3)$  $(\mu \text{ g/m3})$  $(\mu \text{ g/m3})$  $(\mu \text{ g/m3})$ 日数  $(\mu g/m3)$  $(\mu \text{ g/m3})$ 25 46 27.7 20 25 27 50 0.6 111 28. 4 77 56 332 187 148 0.9 2340 3 7 24 25 32 34 28.4 65 54 294 141 115 1.0 1670 28.9 65 56 285 102 84 1.0 1375 227 27 14 24.0 67 36 17 71 59 0.5 1032 21 29.0 68 63 26 193 74 62 26 0.7 1120 28 43 22 49 41 26.1 61 156 0.5 840 18 49 18 236

表1-6 A室の室内空気濃度測定結果(本箱)



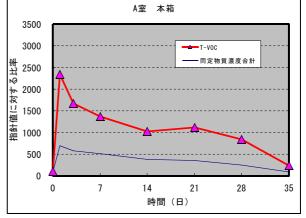
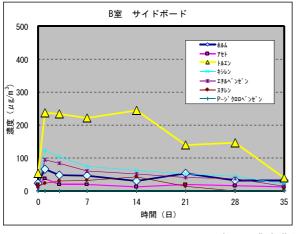


図1-15 時間-濃度曲線(A室 本箱)

B室(サイドボード設置)の室内空気濃度測定結果を表1-7に、時間-濃度曲線を図1-16に示す。

**サイドボート** 温度 湿度 ホルム アセト トルエン 紗沙 エチルヘ゛ンセ゛ン スチレン P-ジクロロペンゼン T-V0C  $\mu \, \text{g/m}$ 3  $(\mu g/m3)$  $(\mu \text{ g/m3})$  $\mu \, \text{g/m3}$  $(\mu \text{ g/m3})$  $\mu$  g/m3) 20 37 26.8 79 53 15 0.5 89 0. 5 0. 5 28.0 76 65 237 123 95 24 1345 3 28. 1 48 20 234 104 84 30 1285 64 20 12 61 51 40 32 43 28.2 47 222 76 0.5 68 979 23. 6 28. 3 67 31 245 14 0.5 1002 62 21 28 14 20 66 54 139 51 0.5 625 25.9 33 15 147 37 60 45 0.5 817 25.8 40 183

表1-7 B室の室内空気濃度測定結果(サイドボード)



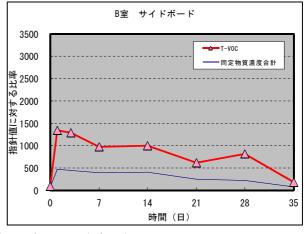
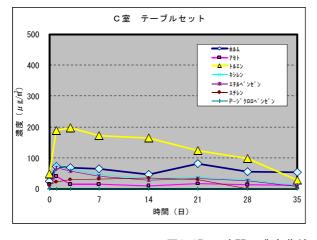


図1-16 時間-濃度曲線 (B室 サイドボード)

C室(テーブルセット)の室内空気濃度測定結果を表1-8に、時間-濃度曲線を図1-17に示す。

T-V0C テーフ゛ルセット 温度 湿度 ホルム アセト トルエン キシレン エチルヘ゛ンセ゛ン スチレン P-ジクロロペンゼン °C 26. 9  $(\mu g/m3)$ 日数  $\mu \, \text{g/m3}$  $\mu \, \text{g/m3}$  $(\mu \text{ g/m3})$  $(\mu \text{ g/m3})$  $(\mu \text{ g/m3})$  $(\mu \text{ g/m3})$  $(\mu \text{ g/m3})$ 72 0. 5 27.9 40 32 36 28.0 0.5 28. 1 0.5 32 23.7 0.5 28 28.4 0.6 25.8 0.5 

表1-8 C室の室内空気濃度測定結果(テーブルセット)



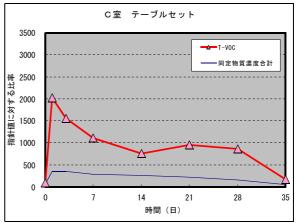
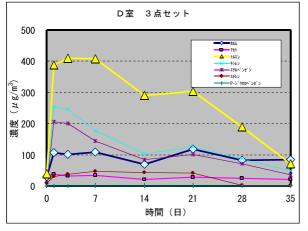


図1-17 時間-濃度曲線(C室 テーブルセット)

D室(家具3点セット)の室内空気濃度測定結果を表1-9に、時間-濃度曲線を図1-18に示す。なお表中の赤塗り部分は厚生労働省指針値を超えている結果を示す。

トルエン 3点セット 温度 湿度 キシレン エチルヘ゛ンセ゛ン スチレン  $(\mu \text{ g/m3})$  $(\mu \text{ g/m3})$ 日数  $\mu \, \mathrm{g/m3}$  $(\mu g/m3)$  $(\mu \text{ g/m3})$  $(\mu g/m3)$  $(\mu \text{ g/m3})$  $(\mu \text{ g/m3})$ 28. 2 0. 5 0. 5 32 34 28. 6 28. 4 407 0. 5 0. 5 7 28.5 29 23.9 0.5 28.8 0.6 26.0 0.5 26.0 

表1-9 D室の室内空気濃度測定結果(家具3点セット)



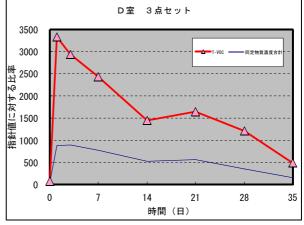
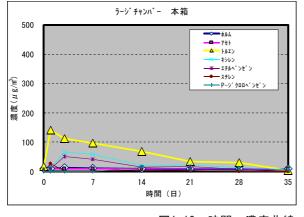


図1-18 時間ー濃度曲線(D室 家具3点セット)

ラージチャンバー(本箱)の室内空気濃度測定結果を表1-10に、時間-濃度曲線を図1-19に示す。

本箱	温度	湿度	ホルム	721	トルエン	キシレン	エチルヘ゛ンセ゛ン	スチレン	P-ジクロロベンゼン	T-V0C
日数	°C	%	$(\mu \text{ g/m3})$							
0	28. 2	51	10	10	18	10	7	2	0. 5	62
1	27. 7	50	10	10	140	11	10	27	0.5	1640
3	30.0	50	13	10	113	67	51	2	0.5	795
7	28.8	50	12	10	98	58	42	3	0.5	580
14	27. 0	50	10	10	68	20	15	6	13. 2	272
21	29.0	50	10	10	35	24	17	3	9. 2	214
28	27.8	50	10	10	30	13	9	1	7. 3	138
35	28. 1	50	10	10	3	7	2	1	6.4	50

表1-10 ラージチャンバーの室内空気濃度測定結果(本箱)



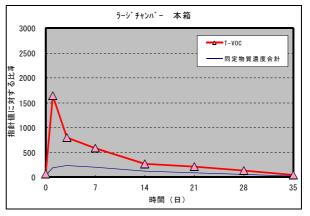


図1-19 時間-濃度曲線 (ラージチャンバー 本箱)

#### ④ 実験室の空気質濃度測定結果 (パッシブサンプリング)

A室(本箱設置)の室内空気濃度測定結果を表1-11に、時間-濃度曲線を図1-20に示す。 なお表中の赤塗り部分は厚生労働省指針値を超えている結果を示す。

表1-11 A室(本箱設置)の室内空気濃度測定結果

A室	杣仏	孙	     	エルバンゼン	もんり	ぼり
本箱	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)
1	0. 041	0.008	0. 130	0.085	0. 111	0.000
3	0.042	0.007	0. 117	0.079	0. 100	0.000
7	0.042	0.010	0. 103	0.060	0.073	0.000
14	0.033	0.009	0. 061	0.029	0.036	0.000
21	0.045	0.005	0.061	0.038	0.047	0.000
28	0.026	0.002	0.053	0.008	0.022	0.000
35	0.031	0.005	0.034	0.013	0.012	0.000

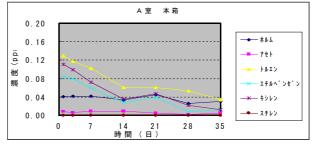


図1-20 時間-濃度曲線(A室 本箱)

B室(サイドボード設置)の室内空気濃度測定結果を表1-12に、時間-濃度曲線を図1-21に示す。なお表中の赤塗り部分は厚生労働省指針値を超えている結果を示す。

表1-12 B室(サイドボード設置)の室内空気濃度測定結果

B室	៷	ፖኒኮ	ミ	エカル゙ンゼン	おい	ぼじ
サイドボード	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)
1	0. 037	0.006	0. 081	0.050	0.065	0.000
3	0.039	0.005	0.080	0.054	0.067	0.000
7	0.036	0.006	0.076	0.043	0.054	0.000
14	0.027	0.006	0.043	0.023	0.022	0.000
21	0. 037	0.003	0.046	0.030	0.036	0.000
28	0. 021	0.001	0.043	0.007	0.020	0.000
35	0. 026	0.004	0.032	0. 015	0.010	0.000

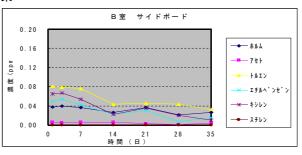


図1-21 時間-濃度曲線 (B室 サイドボード)

C室(テーブルセット設置)の室内空気濃度測定結果を表1-13に、時間-濃度曲線を図1-22に示す。なお表中の赤塗り部分は厚生労働省指針値を超えている結果を示す。

表1-13 C室(テーブルセット設置)の室内空気濃度測定結果

C室	杣仏	<i>7</i> th	シエン	エサル゙ンゼン	もん	ぼい
テブルット	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)
1	0. 048	0.005	0.061	0. 037	0.044	0.000
3	0.046	0.003	0.057	0.035	0.041	0.000
7	0.050	0.005	0.057	0.024	0.026	0.000
14	0.042	0.004	0.034	0.016	0.012	0.000
21	0.055	0.001	0.026	0.018	0.012	0.000
28	0.036	0.001	0.031	0.001	0.004	0.000
35	0.046	0.003	0. 025	0.002	0.002	0.000

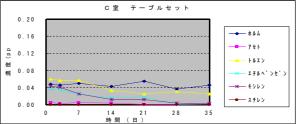


図1-22 時間ー濃度曲線 (C室 テーブルセット設置)

D室(家具3点セット設置)の室内空気濃度測定結果を表1-14に、時間-濃度曲線を図1-23に示す。なお表中の赤塗り部分は厚生労働省指針値を超えている結果を示す。

表1-14 D室(家具3点セット設置)の室内空気濃度測定結果

D <u>≅</u>	Ē	杣仏	ፖቲኑ	シバナン	びがだり	もん	びり
3.於	ŀ	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)
	1	0.064	0.009	0. 184	0. 144	0. 177	0.000
	3	0.069	0.008	0. 191	0. 145	0. 184	0.000
	7	0.078	0.011	0. 151	0. 107	0. 136	0.000
1-	4	0.061	0.009	0.084	0.057	0.070	0.000
2	1	0.079	0.005	0.079	0.070	0.089	0.000
2	8	0.048	0.004	0.062	0.030	0.052	0.000
3	5	0.064	0.006	0.046	0.033	0.045	0.000

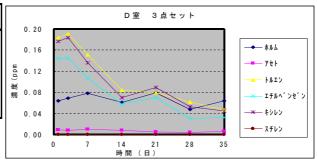


図1-23 時間ー濃度曲線(D室 家具3点セット)

#### ⑤ 結果の考察

#### i 濃度の経時変化

A室からD室までの実験室における濃度を厚生労働省指針値で除した比率を図1-24に示す。 縦軸で1を超える値は、厚生労働省指針値の濃度を超えていることを示している。

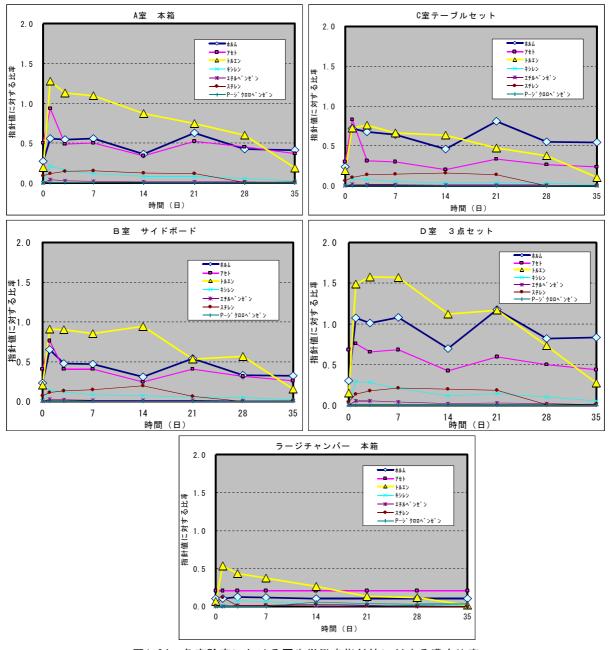


図1-24 各実験室における厚生労働省指針値に対する濃度比率

家具に使用した塗料にトルエンが含まれているため、どの部屋もトルエンが指針値に対して高い値を示している。また時間変化によりトルエン濃度は減衰傾向を示し、家具3点セットを入れた実験室Dにおいても、28日目測定では指針値を下回る結果となった。

ホルムアルデヒド濃度については、実験期間中に大きな濃度低下は認められず、一定の傾向 が認められた。 図1-25にT-VOCの経時変化を示す。なお実践で示した値は、同定した化学物質(トルエン、キシレン、スチレン、エチルベンゼン、p-ジクロロベンゼン)の濃度合計である。

T-VOC濃度は時間経過とともに減少し、最も負荷の大きい3点セットを入れたD室においても、35日経過後は厚生労働省の暫定目標値程度まで濃度は低下した。

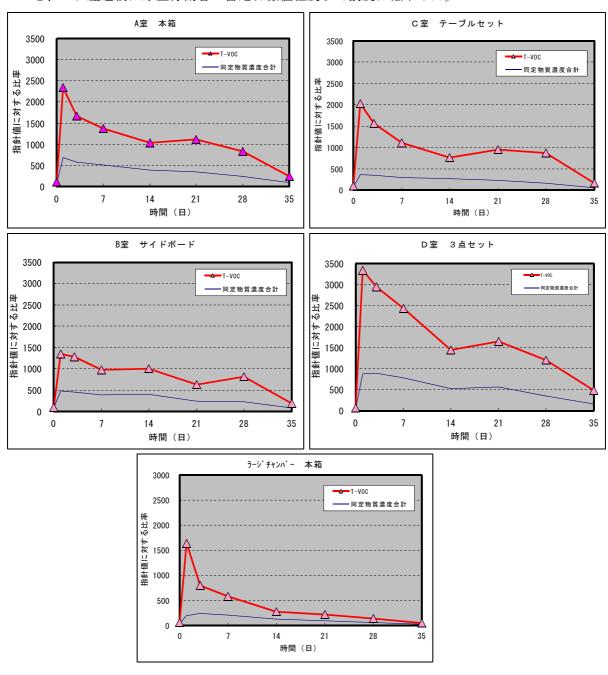


図1-25 T-VOC濃度の経時変化

#### ii 平衡状態でのn/Lと1/Cの関係

0.5回/h換気の環境で試験体を28日間設置した状態を平衡濃度と仮定した。また35日目から37日目にかけ換気停止状態(換気回数0.05回/h)で2日間放置した状態での濃度を測定した。

異なる換気回数での2点の濃度からn/Lと1/Cの関係求めた。図1-26に化学物質毎0n/Lと1/Cの関係を示す。

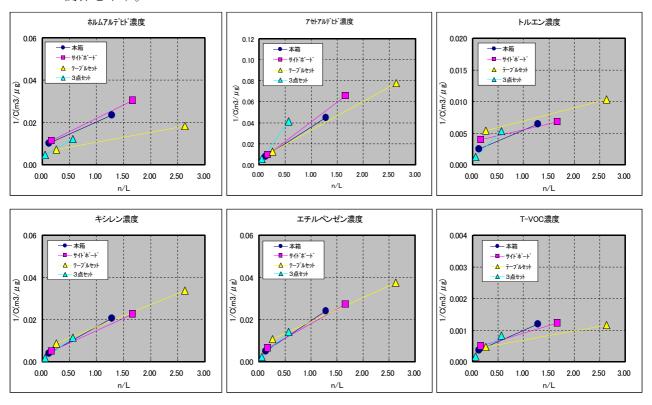


図1-26 化学物質毎のn/Lと1/Cの関係

#### ⑥ まとめ

家具からのVOC放散試験の結果をまとめると以下のようになる。

i 溶剤系塗料で塗装された家具からは、搬入初期に高濃度のVOCが放散することが確認された。 VOCの種類としてトルエンがの濃度が高く、その他のVOCについては指針値を超えること はなかった。

塗料として使用したウレタン樹脂塗料や、塗料の希釈剤にトルエンが含まれていたことが原 因と考えられる。

- ii 溶剤系塗料で塗装された家具を8畳規模の実験室に設置した場合、初期にトルエンは高濃度となったが、温度28℃換気回数0.5回/hの状態で、4週間放置することで、実験室のトルエン気中濃度は厚生労働省の指針値以下に下がった。
- iii 木質材料に含まれるホルムアルデヒドについては、35日間程度では、明確な濃度減衰は確認できなかった。

したがってホルムアルデヒド放散量が少ない木質材料を使用することが重要である。

# 2. 化学物質の放散に与える温度・湿度・日射・エアコン除湿の影響

#### (1)温度影響の実験方法

温度による放散量変化を確認するため、エアコン暖房による温度を、18 、23 、28 、32 の5 刻みで4段階に設定した。

また実験時期をずらし、換気回数についても0.5回/h、1.0回/h、0.05回/h(機械換気停止)の3条件を設定した。実験条件を表1-15に示す。

測定は、同一換気回数において、室内濃度が平衡に達するまでの時間を2日(48時間)と 仮定した。またパッシブサンプリングは、同一実験条件開始から1日目(24時間後)に暴露 を始め、2日目(48時間後)に回収、暴露時間は24時間とした。

アクティブサンプリングは、実験開始から2日目(48時間経過後)にサンプリングを行った。 実験スケジュールを図1-27に示す。

		温度設	定( )	
換気回数	18	23	28	32
0.50		第其	1 実験	
1.00		第期第期	月実験	•
0.05		第期	月実験	

表1-15 実験条件

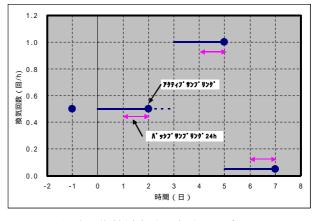


図1-27 温度影響検討実験 実験スケジュール

#### (2)湿度影響の実験方法

湿度による放散量変化を確認するため、加湿器による湿度を、高湿度、中湿度、低湿度の3段階に設定し、実験時の温度は、エアコン暖房運転28 とした。換気回数は0.5回/h設定の一定とした。

実験期間は7日間とし、湿度調整する前のブランク測定、1日目、3日目、7日目の合計 4回測定した。

加湿器による湿度調整を写真1-7に示す。なお加湿器に補助タンクを取り付け、長時間連 続加湿が可能となるよう、加湿器を改造した。



写真1-7 加湿器による湿度調整

#### (3)日射影響の実験方法

日射による放散量変化を確認するため、実験棟4室の西面の窓開口部を、雨戸、カーテン+レース、レース、遮蔽物なしの4つの条件に設定した。

実験室内はエアコン冷房運転で温度設定は28 とした。また湿度に関しては成り行きとしている。 実験棟のフローリングは時間が経過しているため、ホルムアルデヒドの放散が少なくなっ ていることが考えられるため、Fc2レベルのフローリングを実験室の床の上に重ねて設置し、 さらに家具の3点セットを実験室内に設置した。

カーテンは化学物質放散や吸着の可能性があることから、使用の有無にかかわらず、すべての実験室に取り付けた。なおカーテンの材質はポリエステル100%とし、100cm×200cmの2枚組(面積4m²)である。

実験期間は7日間とし、湿度調整する前のブランク測定、1日目、3日目、7日目の合計4回測定した。フローリング施工状況を写真1-8に、日射の遮蔽状況を写真1-9、写真1-10、写真1-11、写真1-12に示す。





写真1-8 フローリング施工と仕様



写真1-9 雨戸 閉



写真1-11 レースのみ



写真1-10 レース + カーテン



写真1-12 遮蔽なし

#### (4)エアコン除湿影響の実験方法

エアコン除湿によるドレインから排出される捕集水にホルム アルデヒドが溶け込むことが知られている。

そこで、夏季における実験時にエアコンドレインからの捕集 水をタンクに集め、水に溶け込んだホルムアルデヒドの濃度と 捕集水量から、気中のホルムアルデヒド低減の効果の確認を行 った。

温度設定は、エアコン冷房28 とし、換気回数は0.5回/hで一定としている。

写真1-13に、エアコンドレイン水のタンクへの捕集状況を示す。



写真1-13 エアコンドレイン水の タンクへの捕集状況

# (5)ホルムアルデヒド及びVOCの測定(アクティブサンプリング)

ホルムアルデヒドの測定は、DNPHカートリッジを用い、流量1.0(L/min)で採気量30(L)とし、二重測定を実施した。サンプリングしたDNPHカートリッジは高速液体クロマトグラフ(HPLC)で分析を行った。VOCの測定は、加熱脱着形捕集管(Perkin Elmer製)を用い、流量0.1(L/min)で採気量3(L)とし、二重測定を実施した。サンプリングした吸着管はガスクロマトグラフ(GCMS)により分析を行ない、空気採取は、実験室中央高さ120cmの位置とした。

# (6)実験結果

#### 温度影響の実験結果

実験期間内の実験室の温湿度の経時変化を図1-28、図1-29に示す。エアコンによる温度制御により概ね設定温度となっていることが確認できる。ただし、湿度については、成り行きのため外気変動の影響を受けている。また図1-30に実験期間内の平均温湿度を示す。

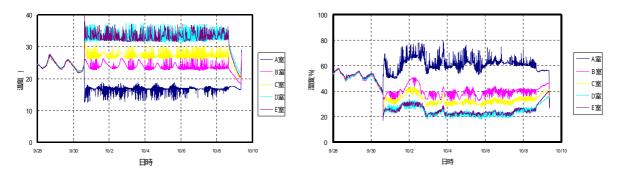


図1-28 実験室内 温度変化

図1-29 実験室内 湿度変化

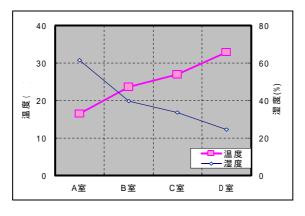
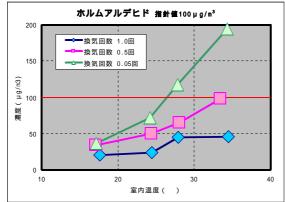


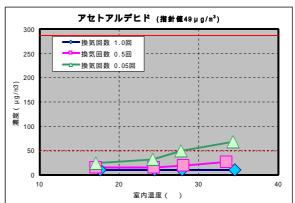
図1-30 各実験室の実験期間内 平均温度・湿度

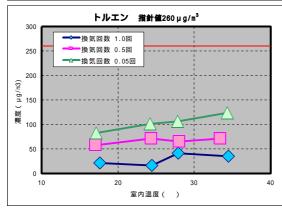
温度影響実験におけるアクティブサンプリングの結果を表1-16に、また温度と室内濃度の関係を図1-31に示す。

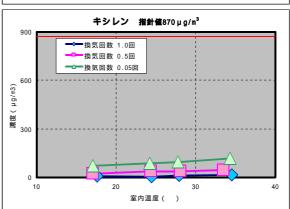
表1-16 温度影響実験 アクティブサンプリング結果

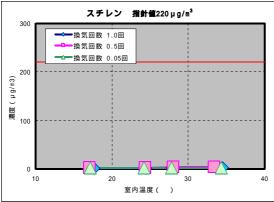
	負荷	換気回数	温度	湿度	ホルムアルテ゛ヒト゛	アセトアルデ・ヒト・	トルエン	キシレン	エチルベンゼン	スチレン	P-ジクロロベンゼン	T-VOC
				%	$(\mu g/m^3)$							
プランク	3 点切	0.50	25.5	46	59	22	91	32	24	4	<0.5	359
	3 点セット	0.50	25.0	42	48	17	75		25	5	<0.5	315
	3 点セット	0.50	25.1	44	53	15	74	35	27	4	<0.5	367
	3 点セット	0.50	25.3	42	47	14	70		23	6	<0.5	323
	無	0.50	23.9	39			23			4		<50
0.5回	3 点切	0.50	17.1	79	34	15	57	24				264
48h	3 点切り	0.50	24.4	52	50	15	71	38		3		388
	3 点切	0.50	28.1	45	65	18	66			3		428
	3 点切	0.50	33.5	37	98	26	71	45	-	3		575
	無	0.50	33.1	38		14	29		5	4		121
1.0回	3 点切	1.00	17.7	70		10	22	8	6	1	<0.5	60
48h	3 点セット	1.00	24.5	45		10	16		3	1	<0.5	97
	3 点切	1.00	27.9	38	45	-	42	-		2	<0.5	142
	3 点切	1.00	34.5	26			34		9	2		215
	無	1.00	35.1	25		10	11	2	1	1	<0.5	50
0.05回	3 点切	0.05	17.1	68	37	24	83			2		576
48h	3 点切	0.05	24.2	47	72	32	101	86	60	3		786
	3 点切	0.05	27.8	45		49	106		64	3		1,035
	3 点切	0.05	34.3	31	195		124			2		1,550
	無	0.05	33.3	26	53	20	45	6	5	2	<0.5	238











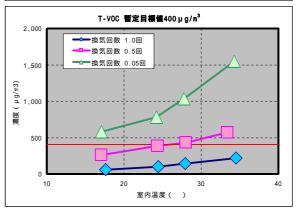


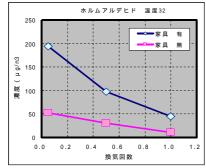
図1-31 設定温度と室内化学物質濃度の関係

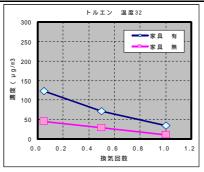
温度設定32 において、D室とE室では、家具の有無による室内濃度の比較を行った。 結果を表1-17及び図1-32に示す。なお家具無しのEで、はフローリングについては重ね貼り をしている。

パッシブサンプリングによる濃度測定結果を表1-64に、温度と濃度の関係を図1-83に示す。

表1-17 家具の有無による室内濃度比較

	ホルムアルデヒド				トルエン				T-VOC			
換気回数	家具	有	家具	無	家具	有	家具	無	家具	有	家具	無
(回/h)	アクティブ	<b>ハ</b> ゚ッシフ゛	アクティフ゛	パッシプ	アクティフ゛	<b>ハ</b> ゚ッシフ゛	アクティフ゛	<b>ハ</b> ゚ッシフ゛	アクティフ゛	<b>パッシフ</b> ゚	アクティフ	パッシフ゛
	(µg/m³)	(µg/m³)	(µg/m³)	(µg/m³)	(µg/m³)	(µg/m³)	(µg/m³)	(µg/m³)	(µg/m³)	(µg/m³)	(µg/m³)	(µg/m³)
0.05	195	162	53	59	124	94	45	53	1550		238	
0.50	98	98	31	37	71	86	29	41	575		121	
1.00	46	55	11	17	34	34	11	26	215		50	
備考	温度設定(	32										





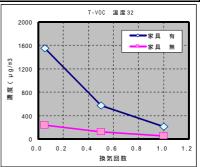
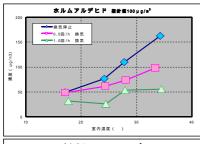
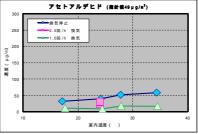


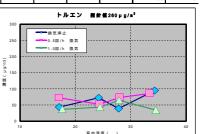
図1-32 温度32 設定における家具の有無と室内濃度の関係

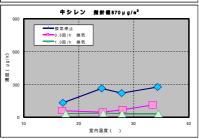
表1-18 パッシブサンプリングによる温度影響実験 結果

冷房 Fc2 暖房 Fc2 暖房 Fc2 暖房 Fc2 暖房 Fc2 冷房 Fc2 暖房 Fc2	3 点セット 3 点セット 3 点セット 3 点セット なし 3 点セット 3 点セット	л' уу' No. Fc10941 Fc10942 Fc10943 Fc10944 Fc10945	パ* ッジ* No. Vc10631 Vc10632 Vc10633 Vc10634 Vc10635	24 24 24 24 24 24	17.1 24.4 28.1 33.5 33.1	% 79 52 45 37 38 70	(ppm) 0.039 0.050 0.060 0.080 0.030	(ppm) 0.013 0.012 0.016 0.017 0.011	(ppm) 0.019 0.014 0.019 0.023 0.011	(ppm) 0.011 0.011 0.012 0.016 0.000	(ppm) 0.013 0.011 0.016 0.026 0.000	(ppm) 0.000 0.000 0.000 0.000	( μ g/m³) 48 61 74 98	(μg/m³) 24 22 29 30
暖房 Fc2 暖房 Fc2 暖房 Fc2 暖房 Fc2 冷房 Fc2	3 点 bット 3 点 bット 3 点 bット な し 3 点 bット	Fc10942 Fc10943 Fc10944 Fc10945	Vc10632 Vc10633 Vc10634 Vc10635 Vc10636	24 24 24 24 24	24.4 28.1 33.5 33.1	52 45 37 38	0.050 0.060 0.080	0.012 0.016 0.017	0.014 0.019 0.023	0.011 0.012 0.016	0.011 0.016 0.026	0.000 0.000 0.000	61 74	22 29
暖房 Fc2 暖房 Fc2 暖房 Fc2 冷房 Fc2	3 点 セット 3 点 セット な し 3 点 セット	Fc10943 Fc10944 Fc10945 Fc10946	Vc10633 Vc10634 Vc10635 Vc10636	24 24 24	28.1 33.5 33.1	45 37 38	0.060 0.080	0.016 0.017	0.019	0.012 0.016	0.016 0.026	0.000	74	29
暖房 Fc2 暖房 Fc2 冷房 Fc2	3 点 tット な し 3 点 tット	Fc10944 Fc10945 Fc10946	Vc10634 Vc10635 Vc10636	24 24	33.5 33.1	37 38	0.080	0.017	0.023	0.016	0.026	0.000		
暖房 Fc2 冷房 Fc2	なし 3 点tット	Fc10945 Fc10946	Vc10635 Vc10636	24	33.1	38							98	30
冷房 Fc2	3 点セット	Fc10946	Vc10636	<b></b>			0.030	0.011	0.011	0.000	0 000			
				24	17.7	70					0.000	0.000	37	19
暖房 Fc2	3占が小	F 4004F				70	0.026	0.006	0.010	0.000	0.007	0.000	32	11
	J ///(C)1	Fc10947	Vc10637	24	24.5	45	0.021	0.005	0.012	0.000	0.008	0.000	26	9
暖房 Fc2	3 点セット	Fc10948	Vc10638	24	27.9	38	0.043	0.010	0.017	0.000	0.008	0.000	53	18
暖房 Fc2	3 点セット	Fc10949	Vc10639	24	34.5	26	0.045	0.009	0.009	0.000	0.008	0.000	55	17
暖房 Fc2	なし	Fc10950	Vc10640	24	35.1	25	0.014	0.005	0.007	0.000	0.000	0.000	17	9
冷房 Fc2	3 点セット	Fc10951	Vc10641	24	17.1	68	0.040	0.018	0.011	0.027	0.031	0.000	49	32
暖房 Fc2	3 点セット	Fc10952	Vc10642	24	24.2	47	0.062	0.022	0.019	0.041	0.061	0.000	76	40
暖房 Fc2	3 点セット	Fc10953	Vc10643	24	27.8	45	0.089	0.028	0.010	0.036	0.051	0.000	110	51
暖房 Fc2	3 点セット	Fc10954	Vc10644	24	34.3	31	0.132	0.032	0.025	0.045	0.063	0.000	162	58
暖房 Fc2	なし	Fc10955	Vc10645	24	33.3	26	0.048	0.016	0.014	0.011	0.000	0.000	59	29
	暖房 Fc2 冷房 Fc2 暖房 Fc2 暖房 Fc2 暖房 Fc2	暖房 Fc2 なし 冷房 Fc2 3点セット 暖房 Fc2 3点セット 暖房 Fc2 3点セット 暖房 Fc2 3点セット	暖房         Fc2         なし         Fc10950           冷房         Fc2         3 点せり         Fc10951           暖房         Fc2         3 点せり         Fc10952           暖房         Fc2         3 点せり         Fc10953           暖房         Fc2         3 点せり         Fc10954	暖房         Fc2         なし         Fc10950         Vc10640           冷房         Fc2         3 点せ外         Fc10951         Vc10641           暖房         Fc2         3 点せ外         Fc10952         Vc10642           暖房         Fc2         3 点せ外         Fc10953         Vc10643           暖房         Fc2         3 点せ外         Fc10954         Vc10644	暖房 Fc2 なし Fc10950 Vc10640 24  冷房 Fc2 3点th Fc10951 Vc10641 24  暖房 Fc2 3点th Fc10952 Vc10642 24  暖房 Fc2 3点th Fc10953 Vc10643 24  暖房 Fc2 3点th Fc10954 Vc10644 24	暖房         Fc2         なし         Fc10950         Vc10640         24         35.1           冷房         Fc2         3点性外         Fc10951         Vc10641         24         17.1           暖房         Fc2         3点性外         Fc10952         Vc10642         24         24.2           暖房         Fc2         3点性外         Fc10953         Vc10643         24         27.8           暖房         Fc2         3点性外         Fc10954         Vc10644         24         34.3	暖房 Fc2 なし Fc10950 Vc10640 24 35.1 25 冷房 Fc2 3点やト Fc10951 Vc10641 24 17.1 68 暖房 Fc2 3点やト Fc10952 Vc10642 24 24.2 47 暖房 Fc2 3点やト Fc10953 Vc10643 24 27.8 45 暖房 Fc2 3点やト Fc10954 Vc10644 24 34.3 31	暖房         Fc2         なし         Fc10950         Vc10640         24         35.1         25         0.014           冷房         Fc2         3 点せか         Fc10951         Vc10641         24         17.1         68         0.040           暖房         Fc2         3 点せか         Fc10952         Vc10642         24         24.2         47         0.062           暖房         Fc2         3 点せか         Fc10953         Vc10643         24         27.8         45         0.089           暖房         Fc2         3 点せか         Fc10954         Vc10644         24         34.3         31         0.132	腰房 Fc2 なし Fc10950 Vc10640 24 35.1 25 0.014 0.005 冷房 Fc2 3点炉 Fc10951 Vc10641 24 17.1 68 0.040 0.018 暖房 Fc2 3点炉 Fc10952 Vc10642 24 24.2 47 0.062 0.022 暖房 Fc2 3点炉 Fc10953 Vc10643 24 27.8 45 0.089 0.028 暖房 Fc2 3点炉 Fc10954 Vc10644 24 34.3 31 0.132 0.032	腰房 Fc2 なし Fc10950 Vc10640 24 35.1 25 0.014 0.005 0.007 冷房 Fc2 3点け Fc10951 Vc10641 24 17.1 68 0.040 0.018 0.011 暖房 Fc2 3点け Fc10952 Vc10642 24 24.2 47 0.062 0.022 0.019 暖房 Fc2 3点け Fc10953 Vc10643 24 27.8 45 0.089 0.028 0.010 暖房 Fc2 3点け Fc10954 Vc10644 24 34.3 31 0.132 0.032 0.025	腰房 Fc2 なし Fc10950 Vc10640 24 35.1 25 0.014 0.005 0.007 0.000 冷房 Fc2 3点計 Fc10951 Vc10641 24 17.1 68 0.040 0.018 0.011 0.027 暖房 Fc2 3点計 Fc10952 Vc10642 24 24.2 47 0.062 0.022 0.019 0.041 暖房 Fc2 3点計 Fc10953 Vc10643 24 27.8 45 0.089 0.028 0.010 0.036 暖房 Fc2 3点計 Fc10954 Vc10644 24 34.3 31 0.132 0.032 0.035 0.045	腰房 Fc2 なし Fc10950 Vc10640 24 35.1 25 0.014 0.005 0.007 0.000 0.000 冷房 Fc2 3点け Fc10951 Vc10641 24 17.1 68 0.040 0.018 0.011 0.027 0.031 暖房 Fc2 3点け Fc10952 Vc10642 24 24.2 47 0.062 0.022 0.019 0.041 0.061 暖房 Fc2 3点け Fc10953 Vc10643 24 27.8 45 0.089 0.028 0.010 0.036 0.051 暖房 Fc2 3点け Fc10954 Vc10644 24 34.3 31 0.132 0.032 0.025 0.045 0.065	腰房 Fc2 なし Fc10950 Vc10640 24 35.1 25 0.014 0.005 0.007 0.000 0.0	履房   Fc2   なし   Fc10950   Vc10640   24   35.1   25   0.014   0.005   0.007   0.000   0.000   0.000   17     冷房   Fc2   3点吹   Fc10951   Vc10641   24   17.1   68   0.040   0.018   0.011   0.027   0.031   0.000   49     曜房   Fc2   3点吹   Fc10952   Vc10642   24   24.2   47   0.062   0.022   0.019   0.041   0.061   0.000   76     曜房   Fc2   3点吹   Fc10953   Vc10643   24   27.8   45   0.089   0.028   0.010   0.036   0.051   0.000   110     曜房   Fc2   3点吹   Fc10954   Vc10644   24   34.3   31   0.132   0.032   0.025   0.045   0.065   0.063   0.000   162









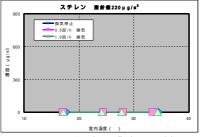
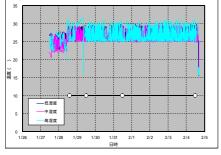


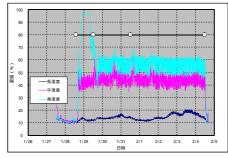
図1-33 温度と濃度の関係

#### 湿度影響の実験結果

実験期間内の実験室の温湿度環境を図1-34、図1-35に示す。また実験期間内の平均温度・ 湿度を図1-36に示す。

アクティブサンプリングによる濃度測定結果を表1-19に、図1-37に濃度の経時変化を示す。





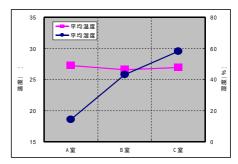


図1-34 実験室内温度経時変化

図1-35 実験室内湿度経時変化

図1-36 平均温度・湿度

表1-19 アクティブサンプリングによる濃度測定結果

条件	実験室	暖房機器		温度	湿度	ホルムアルテ・ヒト・	<b>アセトアル</b> デヒド	トルエン	キシレン	ヹチルペンセ゚ン	スチレン	'-ジクロロペンセ゚	テトラテ゛カン	T-VOC
			(%)		%	(µg/m3)	(µg/m3)	(µg/m3)	(µg/m3)	(µg/m3)	(µg/m3)	(µg/m3)	(µg/m3)	(µg/m3)
プ ランク	Α			28.1	23		<10.0		10	7	7	<0.5	1	194
	3 点セット	エアコン	30	28.1	23	23			10	7	10		1	235
	D			26.3	23				11	9	13		2	253
23 暖房	3 点セット	エアコン	50	26.5	23				11	8	8		2	239
0.5回/h	E			26.5	24	43	<10.0	80	10	8	10		<0.5	334
	3 点tット	エアコン	70	26.1	24		<10.0	81	12	9	11	<0.5	<0.5	339
1日目	Α			27.5	23	26	<10.0	61	10	8	13	<0.5	<0.5	286
	3 点セット	エアコン	30	27.1	23			-	-	-	-	-	-	-
l i	D			26.9	57	50	<10.0	49	9	7	13	<0.5	<0.5	244
23 暖房	3 点セット	エアコン	50	26.6	56	51	12	31	10	7	7	<0.5	<0.5	243
0.5回/h	E			26.2	74	134	10	26	10	8	6	<0.5	<0.5	306
	3 点セット	エアコン	70	26.3	66	134	11	32	17	12	6	<0.5	<0.5	367
3日目	Α			29.1	22	27	<10.0	61	11	9	17	<0.5	1	270
	3 点セット	エアコン	30	27.1	24	27	<10.0	49	10	8	11	<0.5	3	252
	D			26.8	47	47	<10.0	67	12	10	17	<0.5	1	346
23 暖房	3 点セット	エアコン	50	26.2	51	48	<10.0	48	11	9	11	<0.5	<0.5	228
0.5回/h	E			26.8	63	69	12	36	16	13	9	<0.5	<0.5	336
	3 点セット	エアコン	70	26.3	65	73	11	37	6	14	6	<0.5	1	407
7日目	A			28.5	23	28	<10.0	97	14	12	22	<0.5	<0.5	328
	3 点セット	エアコン	30	27.9	24		<10.0	51	11	8	12	<0.5	1	279
1	D D			26.3	53				13	10	12		1	284
23 暖房	3 点セット	エアコン	50	28.9	43				26	19	5		<0.5	370
0.5回/h	E	_, _,		26.7	65				12	9	10		<0.5	236
	3 点tット	エアコン	70	26.6	62				27	21	10		<0.5	402

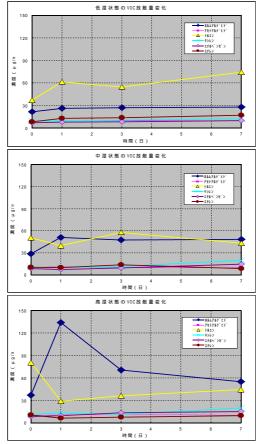


図1-37 湿度条件毎の化学物質濃度の経時変化

アクティブサンプリングにおける湿度と濃度の関係を図1-38に、パッシブサンプリングにおける湿度と濃度の関係を図1-39に示す。

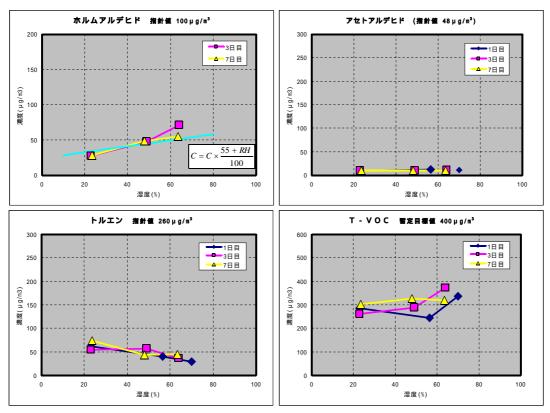


図1-38 アクティブサンプリングにおける湿度と濃度の関係

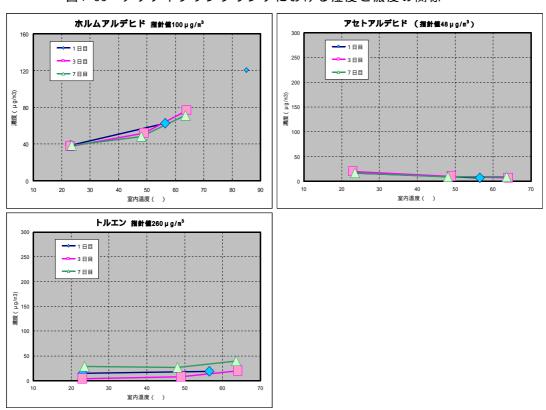


図1-39 パッシブサンプリングにおける湿度と濃度の関係

# 日射影響の実験結果

実験期間内の実験室の温度、湿度、日射の経時変化を図1-40、図1-41、図1-42に示す。 実験時の表面温度の画像を写真1-14に示す。

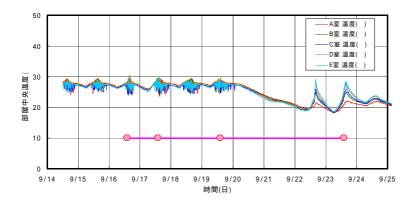


図1-40 実験期間内の実験室 温度

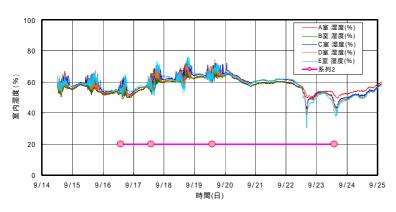


図1-41 実験期間内の実験室 湿度

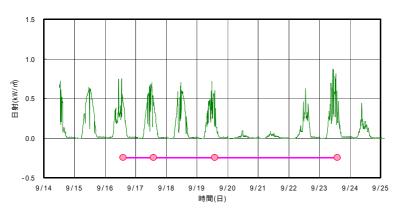


図1-42 実験期間内の屋外日射量

A室 雨戸閉

B室 カーテン閉

C室 レースのみ閉

D室 レース・カーテン開



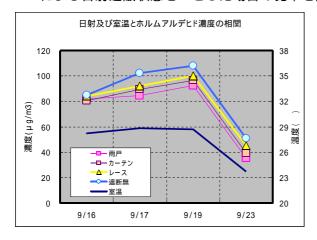






写真1-14 日射の影響実験 表面温度画像

日射の影響による室内濃度変化を図1-43に示す。またホルムアルデヒド濃度において、雨戸による日射遮蔽状態を1とした場合の比率を図1-44に示す。



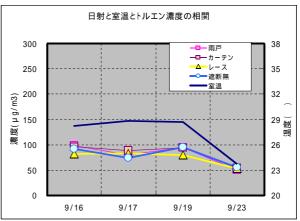


図1-43 日射の影響実験 濃度の経時変化

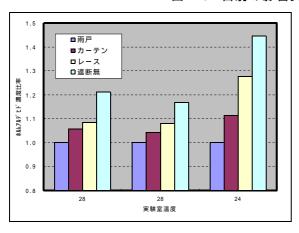
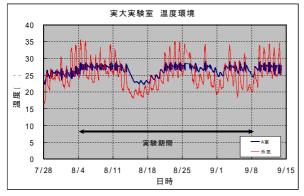


図1-44 雨戸による日射遮蔽状態を1とした場合のホルムアルデヒド濃度比率

#### エアコン除湿影響の実験結果

エアコン除湿実験における実験室及び外気温湿度を図1-45、図1-46に示す。



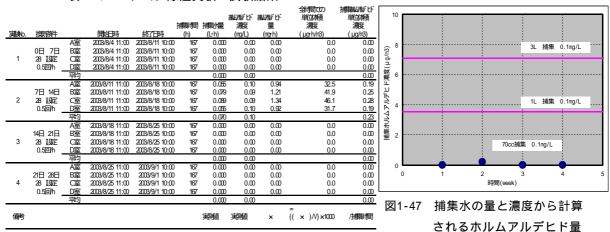
外気とA室 湿度データ 100 80 60 % 温度 40 20 7/28 8/4 8/11 8/18 8/25 9/8 9/15 日時

図1-45 実験室内及び外気温度

図1-46 実験室内及び外気湿度

エアコン除湿実験の結果を表1-20及び図1-47に示す。今回の実験では、エアコンドレインから捕集された水は微量であり、捕集された水の量と濃度(mg/L)から求められるホルムアルデヒド量は非常に少量となっている。

表1-20 エアコン除湿実験 試験結果



実験期間内の外気絶対湿度と実験室内絶対湿度の関係を図1-48に示す。

平成15年度の夏は冷夏であったことから、室内の絶対湿度も外気と同等の値で、設定温度 に制御できたことから、ドレインからの捕集水がとれなかった理由であると覆われる。

以前に実施したエアコン除湿実験では外気絶対湿度と実験室内全体湿度に差が見られ、差分だけエアコンで水となっていたことが考えられる。

以前の実験における絶対湿度の経時変化を図1-49に示す。

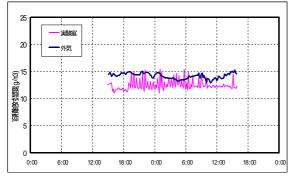


図1-48 絶対湿度の経時変化

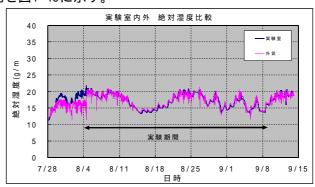


図1-49 エアコンドレインから捕集水が採取できた際 の温湿度条件(過去の実験)

#### まとめ

温度、湿度、日射、エアコン除湿の実験から以下のことが確認できた。

#### 温度影響実験では、

ホルムアルデヒドは温度による影響が大きく、温度上昇とともに発生量は急激に増加する。 T - VOCも温度上昇とともに、濃度は増加する傾向が見られたが、そのほかの化学物質については、明確な温度影響は確認できなかった。

# 湿度影響実験では、

湿度影響実験では、ホルムアルデヒドは温度による影響が大きく、温度上昇とともに発生量はほぼ直線的に増加する。しかしそのほかの化学物質については、明確な温度影響は確認できなかった。

#### 日射の影響実験

日射の影響実験はホルムアルデヒドが影響が見られたが、そのほかの化学物質については、 明確な差は認められなかった。日射を受け、建材の表面温度が上昇したことで、室内のホル ムアルデヒド濃度が上昇したと考えられる。

#### エアコン除湿による影響

今回の実験では、エアコン除湿に夜ドレインからの水の捕集が行われなかった。気温が低いことにより外気の絶対湿度と室内の絶対湿度に差が見られなかったことが原因と考えられる。

# 3. 暖房機器からの化学物質放散試験

#### (1)暖房機器の仕様

今回の実験で用いた暖房機器は、エアコン、電気床暖房、電気床暖房とエアコンの併用、石油ファンヒーターの4種類である。表1-21に暖房機器の仕様を示す。

また床暖(木質系フローリング)施工状況を写真1-15に示す。

# 表1-21暖房機器の仕様

エアコン 100V 電気床暖房 100Vタイプ 平成15年建築基準法対応 F 石油ファンヒーター

3 時間自動消化機能



写真1-15 床暖房(木質系フローリング)施工状況

# (2) 実験スケジュール

暖房機器からの化学物質放散試験は7日間とし、湿度調整する前のブランク測定、1日目、 3日目、7日目の合計4回測定した。

試験前はエアコン23 設定、換気回数0.5回/hで同一条件とし、ブランク濃度測定後、 各実験室毎に暖房機器を運転した。

#### (3)ホルムアルデヒド及びVOCの測定(アクティブサンプリング)

ホルムアルデヒドの測定は、DNPHカートリッジを用い、流量1.0(L/min) で採気量30(L)とし、二重測定を実施した。サンプリングしたDNPHカートリッジは高速液体クロマトグラフ(HPLC)で分析を行った。

VOCの測定は、加熱脱着形捕集管 (Perkin Elmer製)を用い、流量0.1(L/min) で採気量3(L)とし、二重測定を実施した。サンプリングした吸着管は $\hbar$  スクロマトグラフ(GCMS)により分析を行った。

空気採取は、実験室中央、高さ120cmの位置とした。

# (4)試験結果

#### 温度の影響

実験期間内の実験室の温湿度の経時変化を図1-50に示す。また暖房機器運転時の床面表面温度を図1-51に示す。

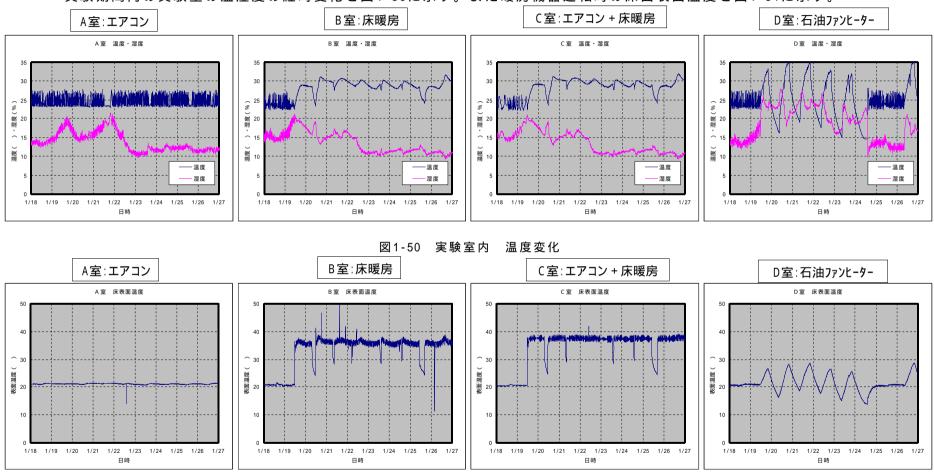


図1-51 床面 表面温度

#### 実験室の二酸化炭素濃度

石油ファンヒーターなどの燃焼機器を室内で使用する場合、二酸化炭素濃度が高くなることから換気が必要となる。

今回は0.5回/h換気を連続運転した状態で石油ファンヒーターを運転した場合の室内二酸 化炭素濃度を測定した。測定結果を図1-52に示す。

石油ファンヒーター以外は、実験室内の二酸化炭素濃度は400ppm前後の値で一定となっている。石油ファンヒーターは3時間で自動消化機能を有しているため、昼間は消化機能が作動する前に連続運転させることができたが、夜間においては燃焼が停止している。石油ファンヒーター燃焼時の室内の二酸化炭素濃度は、7000ppmを超える値となった。

また自動消化による二酸化炭素濃度の減衰から実験室の換気回数を求めると0.4回/hとなった。図1-53に二酸化炭素濃度減衰曲線を示す。実験室の換気回数設定は0.5回/hであるが、減衰法による評価では0.42回/hとなった。

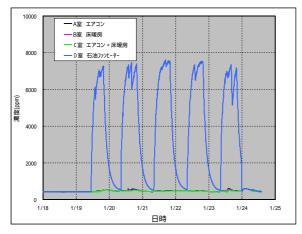


図1-52 実験室内の二酸化炭素濃度

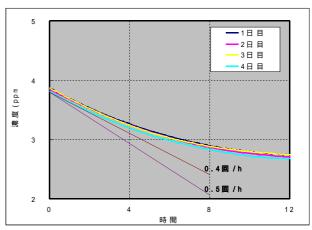


図1-53 二酸化炭素濃度減衰

#### 使用電気料の確認

実験室には、個別に100V電力計が設置されているため、実験期間内に試用した電力を求めることができる。(写真1-16)暖房機器連続運転期間内の電力消費量を図1-54示す。



写真1-16 実験室に設置されている電力計

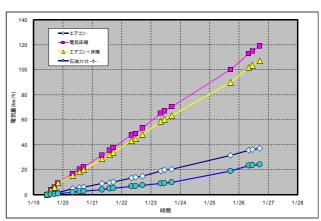


図1-54 暖房機器運転時の電力消費量

#### ホルムアルデヒド及びVOC濃度

暖房機器運転時の実験室温湿度とホルムアルデヒド、トルエンの濃度変化及びT - VOC 濃度変化を図1-55に示す。

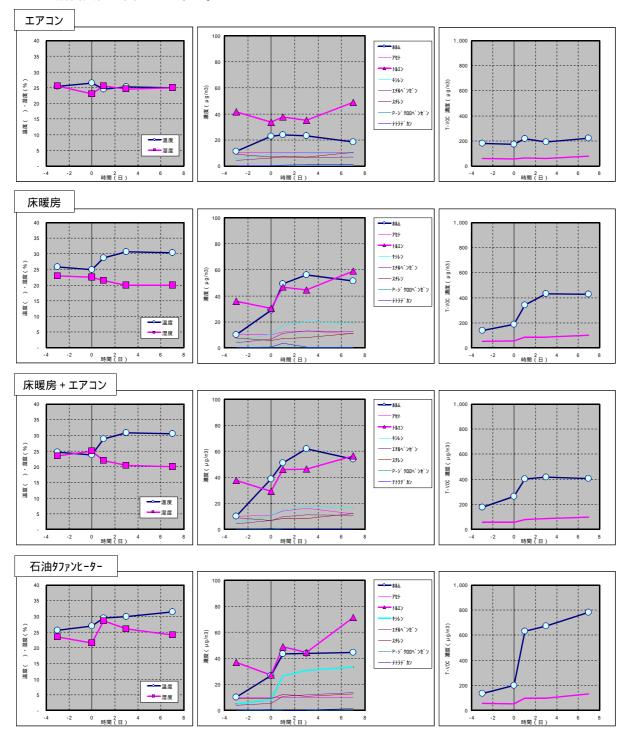


図1-55 暖房機器運転時の実験室温湿度とホルムアルデヒド、トルエンの濃度変化及びT・VOC濃度変化

実験室内の温度とホルムアルデヒド濃度の関係を図1-56に示す。エアコン、石油ファンヒーターによる暖房に比べ、床暖房を用いた暖房は、同一温度において、高めのホルムアルデヒド濃度になっている。しかし今回使用した F の床暖房は、室温30 でも厚生労働省の指針値以下の濃度となっている。

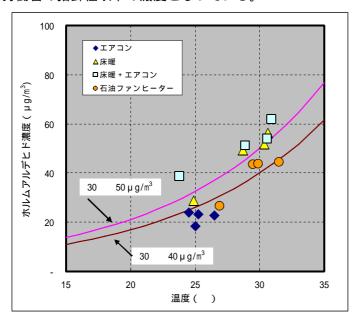


図1-66 実験室内の温度とホルムアルデヒド濃度の関係

#### まとめ

暖房機器からの化学物質放散実験から以下のことが確認できた。

# 電気床暖房からのホルムアルデヒド放散

今回の実験に使用した電気床暖房は、室温30 程度まで加熱しても、室内のホルムアルデヒド濃度は指針値以下となった。

# 石油ファンヒーター運転時のVOC放散

石油ファンヒーター運転時に室内のT・VOC濃度が増加した。また高気密住宅において、石油ファンヒーターの使用により、室内の二酸化炭素濃度濃度は非常に高い値となった。0.5回/h換気運転しない場合、より高濃度となる可能性があり十分注意が必要である。

# 電気量

電気式床暖房は使用する電力が、他の暖房機器に比べ大きくなっている。エアコンによる暖房は、室内温度が設定値となった場合、運転が抑えられ電力羞悪費が少なくなる。

# 第2章 換気設備の適切な設計・施工に関する調査

# 1. 天井裏等対策の実態調査及びクロルピリホスの使用禁止に伴う 代替措置状況の実態調査

#### (1)調査の概要

# 調査対象

在来工法、ツーバイフォー工法の戸建て住宅で、断熱の地域区分 ~ に建設される 住宅。合計で50社60棟程度。

平成15年7月以降に着工する物件

# 調査の方法

(社)日本木造住宅産業協会、(社)日本ツーバイフォー建築協会を通じて実例を収集。

上記の協会に加盟する全国業者と地方の主要業者の実例を収集。

アンケート調査方式(参考資料として、矩計図や換気計画図等も収集)。

#### 調査内容 (詳細は調査表(表2-1)を参照)

天井裏等の対策の実態(建材 F 以上か、気密層・通気止めの施工か、換気によるものか)。

天井裏等の対策の実態が「気密層・通気止めの施工」の場合、気密材料は何か、通気 止めの材料は何か。気密層や通気止めをどこに設置しているか。

天井裏等の対策の実態が「換気」による場合、換気設備の種類は何か(第1種換気、 第3種換気、.....。ダクトの有無。)

クロルピリホスの使用禁止に伴う代替措置(代替薬剤、床気密仕様等)の実態。

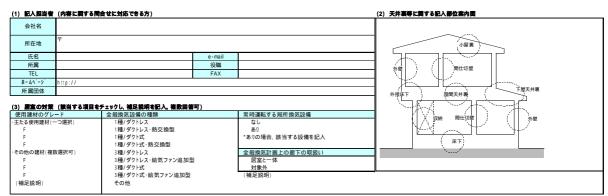
#### 調査時期

平成15年7月中旬、業界団体経由で各社に調査依頼

平成15年8月8日(金) アンケート返送期限

その後適宜、電話等による補足ヒアリング調査

# 表2-1 シックハウス対策における天井裏等の措置に関する調査票



『位	(本田7世廿のガード	に 効 丁汁	断熱材種類	/= cbr++ ±1	(本年)しめ	エ共産業の社業リースの
111	使用建材のグレード	断熱工法		気密材料	通気止め	天井裏等の対策としての
			(材名を記入)	(その他の場合、材名を記入)	(材名を記入)	換気設備の措置
	F	屋根外張断熱	繊維系断熱材	<b>まリエチレンフィルム</b>	外壁取合部	1種/給排気バランス
室裏	F	屋根充填断熱	(	) 断熱材	(	) 1種/天井裏排気
	F	桁上外張断熱	樹脂系断熱材	その他	間仕切取合部	2種
	F	天井断熱	(	) (	) (	) 3種天井裏排気
	(	) (	)	気密の措置なし	通気止めの措置なし	換気の措置なし
	F	屋根外張断熱	繊維系断熱材	ま'リエチレンフィルム	上階外壁取合部	1種/給排気パランス
2天井裏	F	屋根充填断熱	(	) 断熱材	(	) 1種/天井裏排気
	F	桁上外張断熱	樹脂系断熱材	その他	下階外壁取合部	2種
	F	天井断熱	(	) (	) (	) 3種天井裏排気
	(	) (	)	気密の措置なし	通気止めの措置なし	換気の措置なし
	F				上階間仕切取合部	1種/給排気パランス
1天井裏	F		′ I \	_   \	(	) 1種/天井裏排気
	F				下階間仕切取合部	2種
	F				(	3種天井裏排気
	(		\		通気止めの措置なし	換気の措置なし
	F	床充填断熱	繊維系断熱材	まりエチレンフィルム	上階外壁取合部	1種/給排気パランス
床下	F	床外張断熱	(	) 断熱材	(	) 1種/天井裏排気
	F	(	) 樹脂系断熱材	その他	下階外壁取合部	2種
	F	軒天井断熱	(	) (	) (	) 3種天井裏排気
	(	)		気密の措置なし	通気止めの措置なし	換気の措置なし
	F	根太間断熱	繊維系断熱材	ま'リエチレンフィルム	外壁取合部	1種/給排気パランス
F	F	大引間断熱	(	) 断熱材	(	) 1種/天井裏排気
	F	複合断熱	樹脂系断熱材	その他	間仕切取合部	2種
	F	基礎断熱	(	) (	) (	) 3種天井裏排気
	(	)	,	気密の措置なし	通気止めの措置なし	換気の措置なし
	F	外張断熱	繊維系断熱材	オリエチレンフィルム	天井取合部	( 1種/給排気パランス
2	F	複合断熱	(	) 断熱材	( )	1種/天井裏排気
	F	(	樹脂系断熱材	その他	床取合部	2種
	F	充填断熱	(	) (	) (	3種天井裏排気
	(	)	,	気密の措置なし	通気止めの措置なし	換気の措置なし
	F				天井取合部	( 1種/給排気パランス
土切壁	F		<pre>/   \ /</pre>	′ I \	( )	1種/天井裏排気
	F				床取合部	2種
	F				( )	3種天井裏排気
	(		\		通気止めの措置なし	換気の措置なし
	F	$\overline{}$	$\times$	$\times$	+	1種/給排気パランス
纳	F		/   \	<pre>/   \ /</pre>		1種/天井裏排気
.,	F					2種
	1	$\perp$	$\perp$	$\perp$	$\perp$	3種天井裏排気
	1		、 ı /	/	1 /	換気の措置なし

(6) 説明スケッチ ((2)記入部位案内面に示す部分等の納まりを固示する。あるいは当該部位の固面を滞付。)	
(*) 図面、スケッチ等の例	
・矩計図	
・各部詳細図	
・換気設備図	
・その他	

# (2)回答のあったメーカーの概要

調査表の回答が寄せられたメーカーは在来木造系23社(住宅の型別26タイプ)、ツーバイフォー系13社(住宅の型別18タイプ)であった。

在来木造系、ツーバイフォー系ともに 地域が最も多いが、その他の地域では在来木造系は 地域が次に多く、ツーバイフォー系は 地域が多かった。

表2-2 回答のあった在来木造系メーカー

販売地域 記号 A 社 2 B 社 3 C 社 D 社 5 E 社 6 F 社 7 G 社 H 社 8 Ι社 10 J 社 K 社 11 12 L 社 M 社 13 14 N 社 15 0 社 16 P 社 17 Q 社 18 R 社 19 S 社 20 T 社 21 U 社 22 Ⅴ 社 23 W社

表2-3 回答のあったツーバイフォー系メーカー

NO.	記号	販売地域						
NO.								
1	a 社							
2	b 社							
3	c 社							
4	d 社							
5	e 社							
6	f 社							
7	g 社							
8	h 社							
9	i 社							
10	j 社							
11	k 社							
12	1 社							
13	m 社							

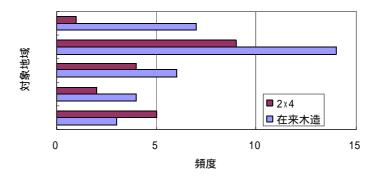


図2-1 調査回答の販売地域

#### (3)調査結果

居室の対策

#### 使用建材

居室の内装に主に用いられる建材は全て F 用いるメーカーはなかった。

のグレードで、F 、F を

また、その他の使用建材もほとんど F で、F を用いるとの回答は 3 社 (いずれも F との複数回答)であり、F を用いるとの回答はなかった。

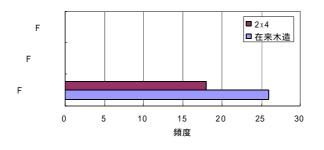


図2-2 主たる使用建材のグレード

図2-3 その他の使用建材のグレード

# 全般換気設備

全般換気設備の方式は、在来木造系では第3種ダクト式が最も多く、第1種ダクトレスがこれに続く。ツーバイフォー系は第1種ダクト式熱交換型が最も多い。

局所換気設備を常時運転する方式はツーバイフォー系で半数近くあるが、在来木造系での比率は比較的少ない。

また、換気計画上の廊下の扱いは、ほとんどが居室と一体の計画であり、対象外とする 回答は在来木造系1社のみである。

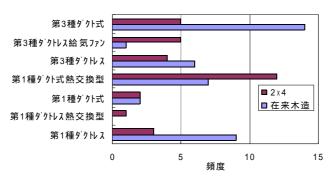
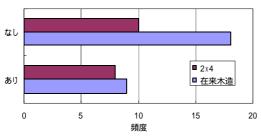


図2-4 全般換気設備の種類



0 5

対象外 居室一体 0 5 10 15 20 25 30

図2-5 常時運転する局所換気設備の有無

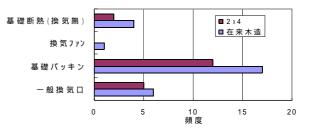
図2-6 換気計画上の廊下の扱い

### クロルピリホスの使用禁止に伴う床下の防蟻対策

### 床下換気

床下換気の方法は基礎パッキンによる ものが多く、基礎断熱(無換気)は少な ١١.

また、換気ファンの方法は一社のみで ある。



### 床下防湿

在来木造系は土間コンが多く、ツーバ イフォー系は防湿シートがやや多い。

図2-7 床下換気方式の種類

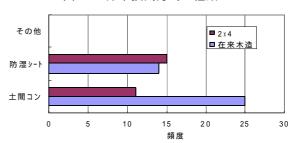


図2-8 床下防湿の方法

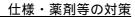


図2-9の「なし」は木部、土壌ともに 薬剤を用いないもので、住宅金融公庫の 仕様に準じ、北海道、青森県以外は土台 等の材種の限定と土間防湿(ベタ基礎) で対応しているものである。

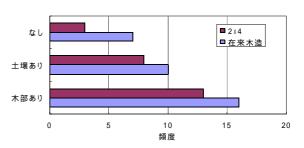


図2-9 床下の薬剤対策

木部の防腐・防蟻対策は、在来木造系、 ツーバイフォー系ともに薬剤での対策 (加圧注入および塗布)が多く、材種の みの対策は比較的少ない。

床下の土壌処理も薬剤散布の対策が多 く、ベタ基礎(又はアリダンシート)の みの対策は少ない。

右表に回答にあった使用薬剤を示す。

表2-4 調査回答の	床下使用薬剤
木部処理薬剤	土壌処理薬剤
・アリピレス20W	・アリピレスME
・タケロック3W	・タケロックMC50
・マイトレックACQ(*)	・ハチクサン
・イミダクロプリド	・イミダクロプリド
・モクボーペネザーブ	・モクボーステレス
・ケミホルツターマイト	・シロネン乳剤
・サンヨーエコロフェン油剤	・サンヨーエコロフェン乳剤
・サンヨーエコロフェンCW	・トーヨーピレス250乳剤
・セルボーP(JWPA A-5265)	
・シロネン油剤	
・トーヨーピレス30WE	

・バックトップMC (\*)は木材注入剤

タナリスCY(\*)

ペンタキュアニューBM(\*)

### 天井裏等の対策

### 使用建材

天井裏等に用いられる建材は、ほとんど Fであり、Fのみを用いるとの回答は在来木造系一社のみ(他社は Fよ(他社は Fとの複数回答)であった。

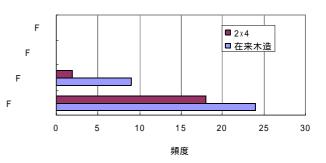


図2-10 天井裏等の使用建材グレード

### 気密仕様

回答の一部に省エネルギー基準の気 密層と混乱して理解しているものがあった。

例えば、外壁外張り断熱や屋根断熱 の場合で、気密層は部位内部の外気側 にあるのに、気密の措置ありとの回答 などである。

補足調査によって修正しているが、 なお一部に誤った回答が残っている可 能性は否定できない。

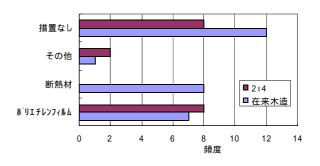


図2-11 小屋裏等の気密仕様

ツーバイフォー系は工法の特性上各部位とも気密となる場合が多い。ただし、天井裏 (小屋裏、下屋天井裏とも)は屋根断熱の場合に限って気密の措置なしとなる。

在来木造系は各部位とも気密の措置なしの場合が多く、気密の措置がある場合も気密材が断 熱材との回答が最も多い。

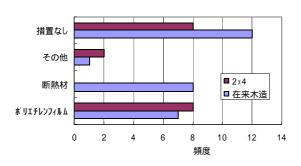


図2-12 下屋天井裏の気密仕様

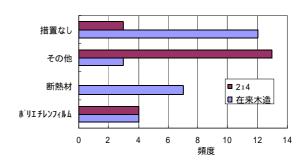


図2-13 外接床下の気密仕様

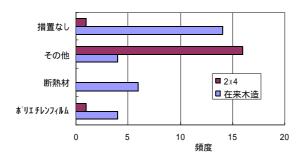


図2-14 最下階床下の気密仕様

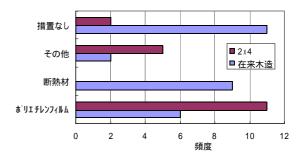


図2-15 外壁の気密仕様

### 外壁および間仕切壁の通気止め

ツーバイフォー系は工法の特性上天井 取合部、床取合部とも通気止めが設けられる。

在来木造系は通気止めの措置なしの場合が多く、通気止めを用いる場合は高断熱に配慮した仕様の場合が多い。

また、床工法が床板による剛性床の場合は、結果的に通気止めとなっていると 考えられる。

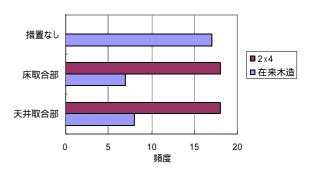


図2-16 外壁及び間仕切壁の通気止め

### 天井裏等の換気対策

換気対策をしないものが多く、ツーバイフォー系では一社のみ収納の換気対策を採用している。

使用建材が F 以上との回答と換 気対策は一見整合していないように考え られるが、より健康志向の高い顧客対応 の仕様として位置付けている。

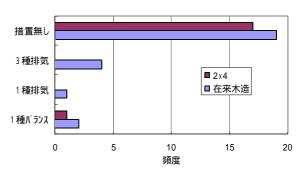


図2-17 天井裏等の換気対策の方法

換気対象部位は階間天井裏が基本と考えられるが、収納、間仕切壁、外壁はそれより多い。

この理由は外壁、間仕切壁、収納を第3種排気で行なうA社、および小屋裏、下屋天井裏を第3種排気で行なうB社が含まれるためである。

なお、両者の換気対策は全般換気設備 (第3種ダクト式)の一部と考えられる が、詳細は確認できていない。

また、床下には換気を排気ファンで行なうH社が含まれている。

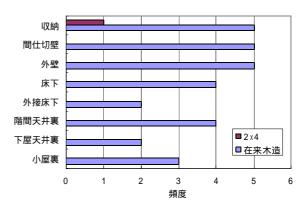


図2-18 天井裏等の換気対策対象部位

### 2. 主要換気設備メーカーへのヒアリング調査結果

- (1) 改正基準法施行(2003年7月1日)以降の換気設備の施工状況
- ① 現場での混乱の有無
  - i 大きな混乱はなかった。
  - ii 設計施工マニュアルの解釈上の疑問点に関しては、BCJホームページ掲載の Q&Aに示されている。
- ② マニュアル等の整備状況
  - i 設計マニュアルとしてはメーカー各社別々に換気プラン作成支援ソフトを開発 し、ユーザーに提供している。(ソフトのデータベースは自社製品に限定される。)
  - ii 施工マニュアルは換気設備の技術資料を整備している。
  - iii メンテナンスについても換気設備の技術資料で記述している。
- ③ 実施された換気設備の種類
  - i 最も簡易な局所換気ファンを兼用する第3種換気設備が多い。
  - ii 戸建住宅についてはメーカーとして第1種を奨めている。
- ④ 換気設備による天井裏対策の実績
  - i ほとんどない
  - ii 換気対策を採用する場合は、給気量を排気量よりやや多く設定する第1種換気設備である。
- ⑤ 部位内部のエアサイクルシステムとからむ全般換気設備の実績
  - i メーカー対応の実績はない。(エアサイクルシステムを採用しているビルダー個々が対応していると考えられる。)

# (2) 換気設備に関する技術開発動向

- ① 現場での風量確認技術の開発動向
  - ・ 必要性は認識しているが、未着手。
- ② 現場での風量調整技術の開発動向
  - ・ 必要性は認識しているが、未着手。
- ③ 省エネとのバランスを考慮した設計方法の開発動向
  - i 設計風量は有効換気量を確保することとしている。
  - ii 設備端末のレイアウトについては施工の手引きに記述している。

# 3. 換気設備部品の性能 風量測定方法確認実験

【目 的】

換気システムの給排気口における風量測定には、海外製品を含め様々な原理を用いた風量測 定器が存在する。

しかし給排気口の形状や吹き出し方向により、各種風量測定器の性能を同一条件で確認した 例は少ない。

今回は異なる給排気口の形状を持つデバイスを設置した換気システム末端部の風量測定を、 様々な風量測定機器を用いて行い、風量測定器の性能を確認することを目的とする。

### (1)試験方法

## ① 換気設備部品の風量測定用簡易風洞

送風機を風量測定用簡易風洞の端部に設置し、直径100mmの塩ビパイプを接続する。 塩ビパイプは、直線的に配置し、長さは6mとする。また塩ビパイプの中央部にオリフィス風量計を設置し、オリフィス前後の圧力差から送風機から送られる空気の風量を求める。 送風機と反対側の末端に給排気ロデバイスを取り付け、給排気口からの風量を風量測定器により測定する。

なお給排気口取り付け端部は、合板を用いて仮想壁面を設置した。

給気及び排気の方向は、送風機の向きを変えることで対応した。風量測定用風洞は、エアコンで空調し、外部風の影響を受けない実験住宅内の廊下に設置した。

風量測定用簡易風洞の状況を表2-5及び写真2-1、写真2-2、写真2-3に示す。

設定風量 強(150m<sup>3</sup>/h) 中(100m<sup>3</sup>/h) 弱(50m<sup>3</sup>/h) が外直間 φ100、φ75 3m程度

3m程度

3m程度

3m程度

表2-5 風量測定用簡易風洞

写真2-1 風量測定用簡易風洞

写真2-2 オリフィスを用いた風量測定



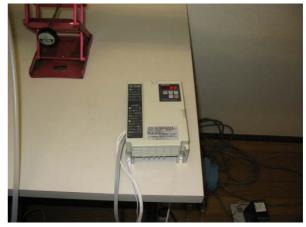


写真2-3 送風機及び風量制御インバータ

# ② 風量測定器

風量測定器は、熱線式3種、プロペラ式1種、ゼロ圧式1種、kファクター法による差圧式2種の合計7機種とした。風量計の仕様を表2-6に、風量計外観を写真2-4に示す。

表2-6 風力計 仕様

番号	測定方式		仕様
		風量:	10 <b>~</b> 300 m³/h
Α	熱線式	測定精度:	フルスケール 土 5 %
		重量:	1.6 kg
		風量:	7 <b>~</b> 230 m³∕h
В	熱線式	測定精度:	フルスケール ±5%
		重量:	1.75 kg
		風量:	8 <b>∼</b> 450 m³/h
С	熱線式	測定精度:	フルスケール 土 5 %
		重量:	1.7 kg
		風速:	0.2~35 m/s
D	プロペラ式	風量:	8 <b>∼</b> 450 m³∕h
	φ 100コ−ン	測定精度:	±2 %
	取り付け時	重量:	約1.0 kg
		風量:	0 <b>~</b> 300 m³∕h
l F	ゼロ圧式	測定精度:	3 <b>∼</b> 5 %
-		重量:	3.9 kg
			ハ゛ッテリー 3.2 kg
		圧力:	0~±1000 Pa
F	差圧式	測定精度:	0.5 %
		Kf=3.0の場合	0∼95 m³/h
		圧力:	-100 <b>~</b> ±1500 Pa
G	差圧式	測定精度:	0.3 %
		Kf=3.0の場合	0~116 m³/h
	差圧式の圧力	力測定値から風量へ	への換算
備考			
	$Q = \cdot$	$\sqrt{\Delta P \times K_f}$	
		J	



熱線式1



熱線式2



熱線式3



ゼロ圧式



プロペラ式



差圧式 1



差圧式 2

写真2-4 風量測定器

## ③ 給排気ロデバイス

今回試験に用いた給排気ロデバイスは、機械換気における先進国であるスウェーデンの 2 社より購入した。

風量測定方法にkファクターを用いた差圧法が含まれているため、kファクターによる 測定に対応していることも給排気デバイスをスウェーデン製とした理由である。 試験に用いた給排気口の種類を表2-7に、詳細を写真2-5~写真2-6に示す。

表2-7 給排気デバイス

_			メノハイス		/.lls .du
	形状	直径(mm)	給気用	排気用	備考
	[DIFFUSER]				
	Sinus A	φ100	S		ceiling nozzle difuser
	Sinus C	φ100	S		ceiling diffuser
	Balance E	φ100		Е	round exhaust diffuser
	Balance S	φ100	S	Е	ceiling or wall diffuser
Α	EFF	φ100		Е	ceiling or wall diffuser
	TFF	φ100	S	Е	ceiling diffuser
	[DAMPER]				
	MR	φ100	S	Е	damper for constant air flow
	SPI	φ100	S	Е	iris damper(measuring and adjusting the air flow)
	SPI F	φ100	S	Е	with a motor
	[PLENUM BOX]				
	PER	φ100	S	Е	plenum box
	[DIFFUSER]				
	PCA	φ100	S	Е	ceiling diffuser
	[PLENUM BOX]	·			
	MBA				
	[FLOW METER]				
	FMI	φ100			insert flow meter
В	[EXHAUST]				
	KU	φ100		Е	K: unknown
	KSU	ф100		Е	K : unknown
	URH	ф100		Е	K : unknown
	KI	ф100	S		K : unknown
	KIR	φ100	S		K : unknown



Sinos A 給気用 ( PlenumBox付)



Sinos C 給気用



Balance E 排気用



Balance S 給排気用



Dumper MR 給排気用



Dumper SPI 給排気用

写真2-5 A社製 給排気デバイス

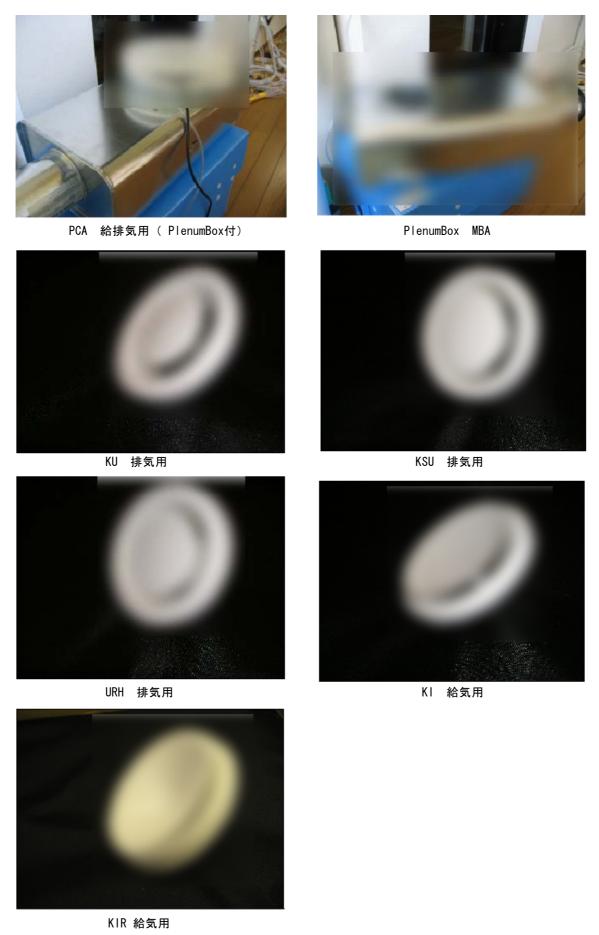
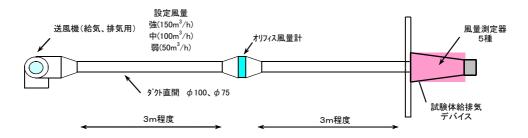


写真2-6 B社製 給排気デバイス

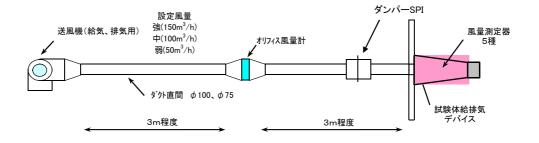
試験を行った給排気デバイスと風量測定器の関係を表2-8に示す。

表2-8 試験を行った給排気デバイスと風量測定器の関係

直管+デバイス		給	気		排気									
	Д	社	В	社		Α	社		B社					
	TFF100	BalanceS	KI100	KIR100	EFF100	TFF100	BalanceS	BalanceE	KU100	KSO100	URH100			
A 熱線式	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
B 熱線式	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
C 熱線式	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
D プロペラ式	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
E ゼロ圧式	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			



ダンパー+デバイス		給	気			排気							
	А	社	В	社		Α	社		B社				
	TFF100	BalanceS	KI100	KIR100	EFF100	TFF100	BalanceS	BalanceE	KU100	KSO100	URH100		
F 差圧式	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
G 差圧式	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		



### ④ 測定方法

以下に示す手順で風量測定を実施した。

- i 測定末端の給気、排気方向を確認し、送風機の風向に対応した末端換気デバイスを取り付ける。
- ii 送風機の風量をインバーターによりコントロールし、測定風洞中央に配したオリフィス風量計の測定値が  $0m^3/h$ 、 $50m^3/h$ 、 $100m^3/h$ 、 $150m^3/h$ となるインバーター周波数を求める。  $0m^3/h$ 、 $50m^3/h$ 、 $100m^3/h$ 、 $150m^3/h$  を実験風量とする。
- iii オリフィスによる風量測定は、風量測定器を末端換気口に設置する前と設置後の2回 測定を行う。
- iv 風量測定器設置後、風量測定器の測定値が安定した段階で、数値を記録する。
- v 風量測定器を末端給排気口から外し、設定風量を変更する。(iiiへ戻る。)
- vi 給排気口の換気デバイスを取り替える(iに戻る。)

上記 i からviの手順で測定した結果から、 オリフィスにより測定した風量を真の風量と仮定し、真の風量と風量測定器による測定値と回帰直線をもとめ、傾き1に対する比率を誤差(%)とする。

(図2-19参照)

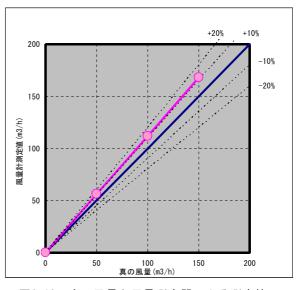


図2-19 真の風量と風量測定器による測定値 回帰直線の求め方

#### (2) 測定結果

測定結果を表2-10~表2-22に示す。なお各表の給排気デバイスの関係を表2-9に示す。

※ 表2-9の表番号は、表2-10~ 表2-22の後ろにある(表-□) と符合する。

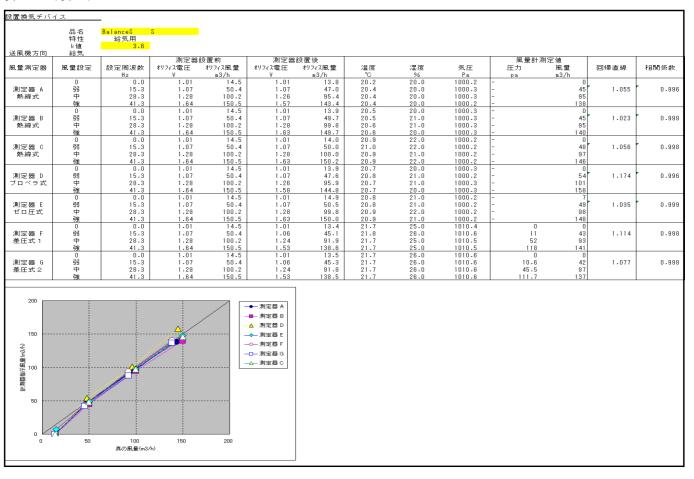
表2-9	試験網	結果の表におけ	トる給排気テ	·バイスの関係
表番	号	給排気方向		デバイス名
表一	6		Α <del>‡†</del>	TFF100
表一	7		M∱I	BalanceS

表-6		A社	TFF100		
表-7		ATI	BalanceS		
表-8	給気	B社	KI100		
表-9		DŢI	KIR100		
表-10			無		
表-11			EFF100		
表-12		A社	TFF100		
表-13		ATL	BalanceS		
表-14	排気		BalanceE		
表-15	137-20		KU100		
表-16		B社	KSO100		
表-17			URH100		
表-18			無		

#### 表 2-10 (表-6)

風機方向	k値 給気	給気用 3.6										
			測定器設		測定器部					風量計測定值		
.量測定器	風量設定	設定周波数 Hz	オリフィス電圧 :	fリフィス風量 m3/h	オリフィス電圧 V	オリフィス風量 m3/h	温度 ℃	湿度 %	気圧 Pa	圧力 風量 pa m3/h	回帰直線	相関係数
	0	0.0	1.01	13.9	1.01	13.9	21.3	24.0	1000.6	- pa m3/n	0	
則定器 A	55	18.5	1.07	49.4	1.07	47.9	21.4	25.0	1000.6	-	46 1.099	0.99
熱線式	中	34.0	1.28	99.8	1.26	96.4	21.4	25.0	1000.6	-	96	
	<u>強</u> 0	48.8	1.63	150.2 13.9	1.58	145.0 13.9	21.3	24.0 25.0	1000.6	-	146	
則定器 B	55	18.5	1.07	49.4	1.07	48.9	21.4	25.0	1000.7	-	43 0.987	0.99
熱線式	中	34.0	1.28	99.8	1.28	98.8	21.4	25.0	1000.8	-	92	
	強	48.8	1.63	150.2	1.62	148.7	21.4	25.0	1000.8	-	134	
則定器 C	0 55	0.0 18.5	1.01 1.07	13.9 49.4	1.01	13.9 49.8	21.3 21.5	25.0 25.0	1010.7	-	0 43 0.932	0.99
熱線式	<b>P</b>	34.0	1.28	99.8	1.29	101.3	21.4	25.0	1010.6	_	89	0.55
	強	48.8	1.63	150.2	1.65	151.6	21.5	25.0	1010.7	-	130	
	0	0.0	1.01	13.9	1.01	13.9	21.2	25.0	1010.7	-	0	
測定器 D	55 中	18.5 34.0	1.07 1.28	49.4 99.8	1.07	47.8 97.2	21.3	25.0 25.0	1010.7 1010.6	-	64 1.329 122	0.99
/U // D IV	強	48.8	1.63	150.2	1.59	145.4	21.2	25.0 25.0	1010.6	-	179	
	0	0.0	1.01	13.9	1.01	14.1	21.3	25.0	1010.7	-	5	
則定器 E	55	18.5	1.07	49.4	1.07	49.9	21.3	25.0	1010.6	-	45 1.005	0.99
ゼロ圧式	中	34.0	1.28	99.8	1.29	101.1	21.3	25.0	1010.7	-	92	
	<u>強</u> 0	48.8	1.63	150.2 13.9	1.64	150.6 13.5	21.3	25.0 26.0	1010.7	- 0	144	
則定器 F	55	18.5	1.07	49.4	1.06	45.4	21.6	25.0	1010.3	10	41 1.094	0.99
差圧式 1	中	34.0	1.28	99.8	1.24	93.2	21.6	25.0	1010.3	5.4	95	
	強	48.8	1.63	150.2	1.54	139.9	21.5	26.0	1010.3	114	138	
測定器 G	0 55	0.0	1.01 1.07	13.9 49.4	1.01 1.06	13.5 45.3	21.7	26.0 26.0	1009.8	0 10.8	0 43 1.079	0.99
煎に器 □ 差圧式 2	ф ээ	34.0	1.28	99.8	1.24	92.4	21.9	26.0	1009.7	46.5	88	0.99
121302	強	48.8	1.63	150.2	1.53	138.3	21.8	26.0	1009.8	112	137	
200 150 	<u> </u>	A			◆ 測定器 A B A M R B B A M R E B B C A M R E B B C A M R E B B C A M R E B C A M R E B C B C A M R E B C B C A M R E B C B C A M R E B C B C A M R E B C B C A M R E B C B C A M R E B C B C A M R E B C B C B C B C B C B C B C B C B C B							

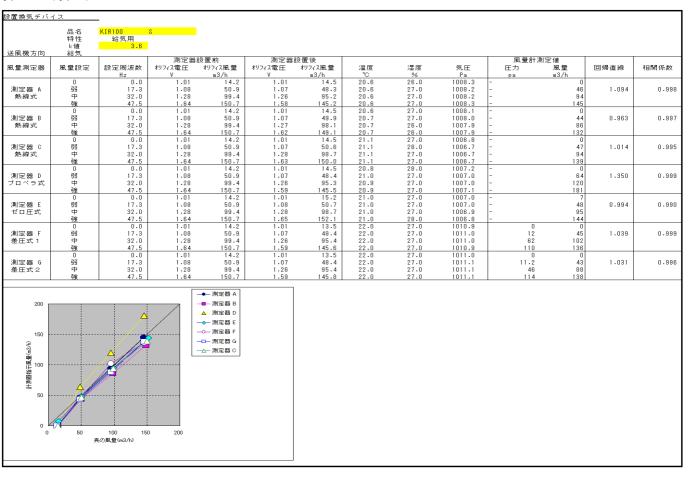
### 表 2-11 (表-7)



#### 表 2-12 (表-8)

× = **	品名 特性 k値	KI100 給気用 3.6	S									
<u> </u>	給気		測定器設		測定器					風量計測定值		
<b>虱量測定器</b>	風量設定	設定周波数 Hz	オリフィス電圧 V	オリフィス風量 m3/h	オリフィス電圧 V	オリフィス風量 m3/h	温度	湿度 %	気圧 Pa	圧力 風量 pa m3/h	回帰直線	相関係数
Outers on a	0	0.0	1.01	14.0	1.01	14.2	21.8	28.0	1014.1		0	
測定器 A 熱線式	弱 中	16.0 30.0	1.07 1.28	49.9 99.5	1.07 1.29	50.4 100.3	22.0 21.9	28.0 28.0	1014.2 1014.2	- 5 - 10		0.99
	<u>強</u> 0	44.5 0.0	1.64	150.8 14.0	1.65	151.6 14.2	21.9	28.0 28.0	1014.1	<u> </u>	2	
測定器 B	55	16.0	1.07	49.9	1.07	50.3	21.9	28.0	1014.3	- 4	7 1.017	0.99
熱線式	中強	30.0 44.5	1.28	99.5 150.8	1.29 1.66	100.6 152.6	21.9 21.9	28.0 28.0	1014.3 1014.3	- 9 - 14		
Puter no. o	0	0.0	1.01	14.0	1.01	14.2	21.8	29.0	1014.6	=	0	
測定器 C 熱線式	劈中	16.0 30.0	1.07	49.9 99.5	1.07 1.29	50.4 100.3	21.9 21.9	29.0 29.0	1014.5 1014.5	- 4 - 9		0.99
	<u>344</u> 0	44.5 0.0	1.64	150.8 14.0	1.65	151.8 14.2	21.9	29.0	1014.5	- 13	6	
測定器 D	55	16.0	1.07	49.9	1.07	48.6	21.9	27.0	1014.4	- 5	8 1.098	0.99
ブロベラ式	中強	30.0 44.5	1.28	99.5 150.8	1.27	97.8 148.7	21.9 21.9	28.0 29.0	1014.4 1014.5	- 10 - 15		
	0	0.0	1.01	14.0	1.01	14.8	21.8	29.0	1014.5	-	7	
測定器 E ゼロ圧式	55 中	16.0 30.0	1.07 1.28	49.9 99.5	1.07 1.28	50.5 100.0	21.9 21.9	28.0 28.0	1014.5 1014.6	- - 4		0.99
	<u>強</u> 0	44.5 0.0	1.64	150.8	1.64	151.0	21.8	29.0	1014.6	- 13 0	0	
測定器 F	55	16.0	1.07	49.9	1.05	41.7	21.9	26.0	1010.7	9 3	9 1.027	0.99
差圧式1	中強	30.0 44.5	1.28 1.64	99.5 150.8	1.22 1.52	89.4 137.5	21.9 21.9	26.0 26.0	1010.7 1010.7	42 8 101 13		
VP-1	0	0.0	1.01	14.0	1.01	13.6	21.9	27.0	1010.8	0	0	
測定器 G 差圧式 2	弱 中	16.0 30.0	1.07 1.28	49.9 99.5	1.05 1.22	41.7 89.6	21.9 22.0	26.0 27.0	1010.9 1010.8	9.2 3 42 8	4	0.99
	強	44.5	1.64	150.8	1.53	137.9	21.9	27.0	1010.9	109 13	5	
200				► 測定器 A ■ 測定器 B ▲ 測定器 D								
150			<u></u>	→ 測定器 E > 測定器 F								
13/h)			7	」─ 測定器 G └─ 測定器 C								
計測器指示風量(m3/h) 00												
鷹 100		140										
壨	1/											
50	<del>\</del>											
0 12	50	100 150	200									

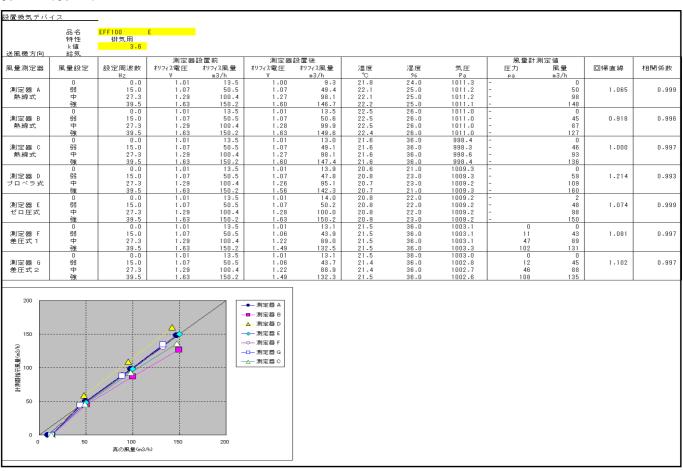
### 表 2-13 (表-9)



#### 表 2-14 (表-10)

照量制定器 展載記字 投資的波数 17/7 電子 17/7 (Age 1/2 (Age 1/												SPI100 3.6	品名 特性 k値	
親量測定器 展量設定 設定制炭散 1977(電圧 1977)保置 1977(限量 1977)保証 1977(電圧 1977)保証 1977(日本 1977) 1987			計測定值	風量意				2 置後	測定器	設置前	測定器	1 1	給気	<u> </u>
加定器 A 55 19.8 1.01 13.5 1.01 13.6 22.3 29.0 997.7 - 40 対象が、 中 38.5 1.29 100.5 1.29 100.5 22.3 29.0 997.6 - 49 1.124 熱類式 中 38.5 1.29 100.5 1.29 100.5 22.3 29.0 997.6 - 102 が 57.0 1.63 150.4 1.64 150.6 22.3 29.0 997.6 - 102 102 102 102 102 102 102 102 102 102	相関係数	回帰直線	風量	圧力				オリフィス風,量	オリフィス電圧	オリフィス風量	オリフィス電圧		風量設定	<b>虱量測定器</b>
無線式 中 38.5 1.29 100.5 1.29 100.5 22.3 29.0 997.6 - 102			0	- 22	997.7	29.0	22.3	13.6	1.01	13.5	1.01	0.0		
3件   57.0   1.63   150.4   1.64   150.6   22.2   29.0   997.7   - 156   155   15	0.8	1.124		-										
別定器 B 55 19.8 1.07 49.6 1.07 49.6 1.07 49.6 1.07 49.9 22.4 29.0 997.5 - 47 0.971 無線式 中 38.5 1.29 100.5 1.29 100.8 22.4 29.0 997.4 - 92 136 57.0 1.63 150.4 1.64 150.9 22.4 29.0 997.4 - 136 150.4 1.68 150.4 1.64 150.9 22.4 29.0 997.4 - 136 150.4 1.68 150.4 1.64 150.9 22.4 29.0 997.4 - 136 150.4 1.68 150.4 1.68 150.9 22.7 30.0 996.5 - 44 1.020 150.9 19.8 1.07 49.6 1.07 49.6 1.07 49.7 22.7 30.0 996.6 - 94 1.00 150.4 1.68 150.4 1.68 150.5 22.7 30.0 996.6 - 94 1.00 150.5 1.29 100.5 10.0 100.0 100.0 100.0 100.0 100.0 100.0 100.0 100.0 100.0 100.0 10				_										美元 物味 工儿
無線式 中 38.5 1.29 100.5 1.29 100.6 22.3 29.0 997.4 - 92 13.6 1.63 150.4 1.64 150.9 22.4 29.0 997.4 - 13.6 150.9 10.0 1.0 1 13.6 1.0 1 14.1 12.6 1.0 1 13.6 1.0 1 13.6 1.0 1 14.1 12.6 1.0 1 13.6 1 13.6 1 13.6 1 13.6 1 13.6 1 13.6 1 13.6 1 13.6				-									0	
強性   1.63   150.4   1.64   150.9   22.4   29.0   997.4   - 136   136   136   13.5   1.01   13.4   22.7   29.0   998.7   - 10   13.5   1.01   13.4   22.7   29.0   298.5   - 44   1.020   20.8   29.0   298.5   - 44   1.020   20.8   20.0   298.5   - 44   1.020   20.0	0.8	0.971	47	-	997.5	29.0	22.4	49.9	1.07	49.6	1.07	19.8	55	
制定器 C				-										熱線式
測定器 C 号号 19.8 1.07 49.6 1.07 49.7 22.7 30.0 996.5 - 44 1.020 条線式 中 38.5 1.29 100.5 1.29 100.5 22.7 30.0 996.6 - 94 141				-										
熟練式 中 38.5 1.29 100.5 1.29 100.5 22.7 30.0 996.6 - 94 141	0.9	1 020												測字架 6
強食   57.0	0.0	1.020		_										
別定器 0 号号 19.8 1.07 49.6 1.07 48.8 22.5 29.0 997.0 - 58 1.153 プロペラ式 中 38.5 1.29 100.5 1.28 98.8 22.5 29.0 997.1 - 107 38.5 1.29 100.5 1.28 98.8 22.5 29.0 997.1 - 160 107 38.5 1.9 100.5 1.28 98.8 22.5 29.0 997.1 - 160 107 38.5 1.9 100.5 1.28 98.8 22.6 29.0 986.9 - 6 0 1.068 107 49.6 1.07 49.6 1.07 49.6 1.07 49.5 22.6 29.0 986.8 - 102 10.68 10.0 10.0 10.0 10.0 10.0 10.0 10.0 10.				-										
プロペラ式 中 38.5 1.29 100.5 1.28 98.8 22.5 29.0 997.1 - 107				-	997.4	29.0	22.4	13.4	1.01	13.5	1.01	0.0	0	
予報   150.4   1.81   148.5   22.5   29.0   997.1   - 160   1.00   1.00   1.00   1.01   13.5   1.01   14.1   22.6   29.0   998.9   - 8   8   19.8   1.07   49.6   1.07   49.5   22.6   29.0   998.8   - 102   1.068   19.8   1.28   100.5   1.28   100.5   22.6   29.0   998.8   - 102   1.068   19.8   1.07   49.6   1.64   150.5   22.6   29.0   998.8   - 102   1.068   19.8   10.7   49.6   1.07   49.6   1.07   49.5   22.6   29.0   998.8   - 102   153   19.8   1.07   49.6   1.07   49.5   22.8   30.0   996.5   0   0   0   0   0   0   0   0   0	0.8	1.153		-										
測定器 E				-										ブロベラ式
測定器 E 55 19.8 1.07 49.6 1.07 49.5 22.6 29.0 996.9 - 50 1.088 ゼロ圧式 中 38.5 1.29 100.5 1.29 100.5 22.6 29.0 996.8 - 153 0 0 0.0 1.01 13.5 1.01 12.8 22.7 38.0 986.8 - 153 0 0 0.0 1.01 13.5 1.01 12.8 22.7 38.0 986.5 0 0 0 0.0 1.158 登任式1 中 38.5 1.29 100.5 1.28 100.0 22.8 30.0 996.2 63 103 55.0 1.158 6 57.0 1.83 150.4 1.83 150.1 22.8 30.0 996.2 155 161 0 0 0 0.0 1.01 13.5 1.01 12.9 22.8 30.0 996.2 155 161 0 0 0 0.0 1.01 13.5 1.01 12.9 22.8 30.0 996.1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0				-										
ゼロ圧式 中 38.5 1.29 100.5 1.29 100.5 22.6 29.0 996.8 - 102 95.0 95.0 1.83 150.4 1.84 150.5 22.6 29.0 996.8 - 153 153 9.0 1.01 13.5 1.01 12.9 22.7 30.0 996.5 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0.8	1 069		[										100字黑 6
36	0.0	1.000		-										
測定器 F				-										
差任式1 中 38.5 1.29 100.5 1.28 100.0 22.8 30.0 996.2 63 103 57.0 1.83 150.4 1.83 150.1 22.8 30.0 996.2 155 161 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1													0	
強 57.0 1.83 150.4 1.83 150.1 22.8 30.0 996.2 155 181 0 0 0.0 1.01 13.5 1.01 12.9 22.8 30.0 996.1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0.9	1.158												
測定器 6														差圧式1
測定器 6														
差圧式 2 中 38.5 1.29 100.5 1.28 100.0 22.8 31.0 996.0 65 104 57.0 1.63 150.4 1.63 150.1 22.9 30.0 996.1 156 162	0.9	1 165												測字界 G
強   57.0   1.63   150.4   1.63   150.1   22.9   30.0   996.1   156   162   150   150   150   150   150   150   150   150   150   163   150.1   163   150.1   150   1	0.0	11,00											i ii	
→ 測定器 A → 測定器 D → 測定器 E → 測定器 E													強	
									■ - 測定器 B ■ - 測定器 D - 測定器 E - 測定器 F 3 - 測定器 G					150 (V&w)明備100

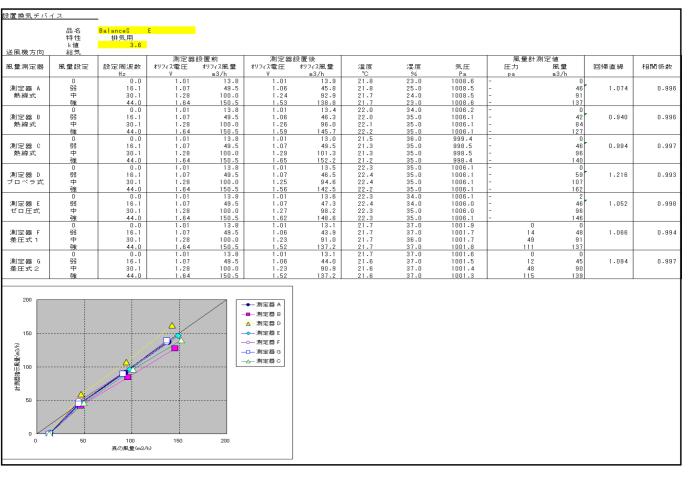
### 表 2-15 (表-11)



#### 表 2-16 (表-12)

送風機方向	品名 特性 k値 給気	TFF100 排気用 3.6	E									
風量測定器	風量設定	設定周波数	測定器 オリフィス電圧	没置前 オリフィス風量	測定器 オリフィス電圧	設置後 オリフィス風量	温度	湿度	気圧	風量計測定値 圧力 風量	回帰直線	相関係数
风重州走站	风里改定	Hz	٧	m3/h	4771X	m3/h	°C	%	Pa	pa m3/h		1 DIXI INCEX
測定器 A	0 55	0.0 15.5	1.01	16.4 50.3	1.01 1.08	12.9 52.6	22.8 22.7	27.0 27.0	1011.8 1011.8		0 1.083	0.998
測定器 A 熱線式	ф ф	27.3	1.28	99.9	1.08	100.7	22.7	27.0	1011.8	- s - 10		0.998
211.447.44	強	40.7	1.63	150.1	1.68	154.5	22.8	28.0	1011.8	- 15	5	
(8)( 🗢 😡 n	0	0.0 15.5	1.01	16.4 50.3	1.01	12.9 51.6	22.8 22.8	28.0 28.0	1011.8 1011.9		0.924	0.997
測定器 B 熱線式	55 中	27.3	1.07	99.9	1.08	98.6	22.8	28.U 28.O	1011.9	- 4 - 8	5 0.924 7	0.997
M. W. Z-4	強	40.7	1.63	150.1	1.66	153.3	22.7	27.0	1011.9	- 13	1	
'Butto an	0	0.0	1.01	16.4	1.01	12.9	21.4	36.0	998.4		0	
測定器 C 熱線式	55 中	15.5 27.3	1.07 1.28	50.3 99.9	1.08 1.27	50.9 98.1	21.5 21.5	36.0 36.0	998.4 998.5		7 1.003	0.997
TT. 1001 2-4	3 <u>9</u>	40.7	1.63	150.1	1.66	152.6	21.5	36.0	998.5	- 14		
	0	0.0	1.01	16.4	1.01	14.0	20.8	26.0	1007.4		0	
測定器 D ブロベラ式	55 中	15.5 27.3	1.07	50.3 99.9	1.08 1.28	51.0 99.3	21.0 21.0	26.0 26.0	1007.3 1007.3	- 6 - 11	2 1.226	0.995
7 L \ 7 E \	強	40.7	1.63	150.1	1.65	151.9	20.8	26.0	1007.3	- 17		
	0	0.0	1.01	16.4	1.01	14.0	20.1	20.0	1009.4	-	3	
測定器 E	55 中	15.5 27.3	1.07	50.3 99.9	1.08	54.3	20.4	22.0 22.0	1009.3 1009.3	- 5 - 10	2 1.068	0.999
ゼロ圧式	強	40.7	1.28	150.1	1.30 1.72	102.7 158.1	20.6 20.7	22.0	1009.3	- 10 - 15		
	0	0.0	1.01	16.4	1.01	13.0	21.6	37.0	1002.3	0	0	
測定器 F	33	15.5	1.07	50.3	1.06	45.3	21.6	37.0	1002.0		7 1.152	0.998
差圧式 1	中強	27.3 40.7	1.28 1.63	99.9 150.1	1.22 1.52	88.4 136.7	21.5 21.6	37.0 37.0	1002.1 1002.2	48 9 126 14	0	
	0	0.0	1.01	16.4	1.01	13.1	21.6	37.0	1002.3		ō	
測定器 G	55	15.5	1.07	50.3	1.06	45.4	21.6	37.0	1002.3		5 1.098	0.998
差圧式2	中確	27.3 40.7	1.28	99.9 150.1	1.22	88.4 137.3	21.6 21.7	37.0 36.0	1002.3	45 8 115 13	7	
	594	40.7	1.03	130.1	1.02	137.3	21.7	30.0	1002.2	110 10	91	
150	50	100	150	-	● 測定器 A ■ 測定器 B △ 測定器 D ◆ 測定器 C ● 測定器 C □ 測定器 C							

### 表 2-17 (表-13)



# 表 2-18 (表-14)

\\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\	品名 特性 k値	BalanceE 排気用 3.6	E										
<u>送風機方向</u> 風量測定器	給気 風量設定	設定周波数	測定器 オリフィス電圧	オリフィス風 量	オリフィス電圧	設置後 オリフィス風量	温度	湿度	気圧	風量計測5 圧力	風量	回帰直線	相関係数
測定器 A 熱線式	0 弱 中 強	Hz 0.0 18.0 33.5 48.5	1.01 1.07 1.29 1.63	m3/h 13.2 50.1 100.9 149.9	1.01 1.07 1.28 1.62	m3/h 13.4 50.3 100.1 149.1	°C 22.6 22.5 22.5 22.5	94.0 34.0 35.0 35.0 34.0	Pa 1009.5 1009.7 1009.7 1009.6	- pa - - -	m3/h 0 50 99 149	1.081	0.99
測定器 B 熱線式	0 弱 中 強	0.0 18.0 33.5 48.5	1.01 1.07 1.29 1.63	13.2 50.1 100.9 149.9	1.01 1.07 1.29 1.63	13.4 50.4 100.6 149.5	22.4 22.4 22.4 22.4 22.4	35.0 35.0 34.0 35.0	1009.7 1009.7 1009.7 1009.7	- - -	0 45 90 129	0.937	0.99
測定器 C 熱線式	0 55 中 強	0.0 18.0 33.5 48.5	1.01 1.07 1.29 1.63	13.2 50.1 100.9 149.9	1.01 1.07 1.28 1.62	12.9 49.7 99.9 148.9	21.3 21.3 21.3 21.4	36.0 36.0 36.0 36.0	999.6 999.6 999.5 999.5	- - -	0 46 94 136	0.990	0.99
測定器 D ブロベラ式	0 55 中 強	0.0 18.0 33.5 48.5	1.01 1.07 1.29 1.63	13.2 50.1 100.9 149.9	1.01 1.07 1.27 1.57	13.4 48.1 97.0 144.0	22.5 22.5 22.5 22.5	35.0 35.0 34.0 35.0	1009.7 1009.8 1009.7 1009.7	- - -	0 60 110 162		0.99
測定器 E ゼロ圧式	0 55 中 強	0.0 18.0 33.5 48.5	1.01 1.07 1.29 1.63	13.2 50.1 100.9 149.9	1.01 1.07 1.29 1.65	13.4 50.2 101.6 151.7	21.8 22.1 22.1 22.2	31.0 29.0 30.0 30.0	1010.7 1010.6 1010.6 1010.6	- - -	2 48 100 150	1.060	0.99
測定器 F 差圧式 1	0 55 中 強	0.0 18.0 33.5 48.5	1.01 1.07 1.29 1.63	13.2 50.1 100.9 149.9	1.01 1.06 1.24 1.53	13.0 45.8 93.2 138.8	21.1 21.1 21.1 21.0	33.0 33.0 33.0 33.0	1000.2 1000.2 1000.1 1000.2	0 13 60 110	0 47 100 136	1.078	0.99
測定器 G 差圧式 2	0 弱 中 強	0.0 18.0 33.5 48.5	1.01 1.07 1.29 1.63	13.2 50.1 100.9 149.9	1.01 1.06 1.24 1.53	13.1 45.9 93.2 139.1	21.0 21.0 21.0 21.0	34.0 34.0 34.0 34.0	1000.2 1000.2 1000.2 1000.2	0 12.8 51 118	0 46 93 141	1.096	0.99
200 150 (VS) 申 111 111 111 111 111 111 111 111 111 1	50	利の配置(ms/	150		● 測定器 A B N N N N N N N N N N N N N N N N N N								

# 表2-19 (表-15)

送風機方向	品名 特性 k値 排気	KU100 排気用 3.6										
風量測定器	風量設定	設定周波数		オリフィス風量	測定器: オリフィス電圧	オリフィス風量	温度	湿度	気圧	風量計測定値 圧力 風量	回帰直線	相関係数
測定器 A 熱線式	0 弱 中 強	Hz 0.0 17.5 33.0 47.5	1.01 1.07 1.29 1.62	m3/h 13.4 49.9 101.1 149.1	1.01 1.07 1.28 1.59	m3/h 13.3 49.2 99.1 146.3	22.9 22.9 22.9 22.9 22.9	% 31.0 31.0 31.0 30.0	Pa 1008-6 1008-6 1008-6 1008-6	pa m3/h - 0 - 50 - 98 - 147	1.084	0.997
測定器 B 熱線式	0 弱 中 強	0.0 17.5 33.0 47.5	1.01 1.07 1.29 1.62	13.4 49.9 101.1 149.1	1.00 1.07 1.29 1.61	12.6 49.8 100.5 148.2	23.0 22.9 23.0 23.0	31.0 31.0 32.0 32.0	1008.6 1008.6 1008.5 1008.6	- 0 - 45 - 90 - 129	0.939	0.996
測定器 C 熱線式	0 55 中 強	0.0 17.5 33.0 47.5	1.01 1.07 1.29 1.62	13.4 49.9 101.1 149.1	1.01 1.07 1.29 1.61	12.9 49.4 100.3 148.1	21.7 21.7 21.7 21.7	36.0 37.0 36.0 37.0	998.6 998.4 998.3 998.6	- 0 - 46 - 91 - 134	0.973	0.995
測定器 D ブロベラ式	0 弱 中 強	0.0 17.5 33.0 47.5	1.01 1.07 1.29 1.62	13.4 49.9 101.1 149.1	1.01 1.07 1.27 1.59	13.1 48.0 97.8 145.2	23.0 23.1 23.1 23.0	32.0 32.0 32.0 32.0	1008.6 1008.5 1008.6 1008.6	- 0 - 60 - 112 - 186	1.223	0.999
測定器 E ゼロ圧式	0 弱 中 強 0	0.0 17.5 33.0 47.5 0.0	1.01 1.07 1.29 1.62	13.4 49.9 101.1 149.1	1.01 1.07 1.29 1.62	13.6 49.6 100.9 149.0	23.1 23.1 23.1 23.1 21.3	31.0 31.0 32.0 33.0	1008.5 1008.5 1008.4 1008.4	- 4 - 48 - 100 - 148	1.055	0.997
測定器 F 差圧式 1	可 明 中 強 0	17.5 33.0 47.5	1.07 1.29 1.62	13.4 49.9 101.1 149.1	1.06 1.25 1.53	45.5 93.4 138.0	21.3 21.3 21.3 21.3	35.0 35.0 36.0 36.0	1004.1 1004.0 1003.9 1003.9	13 47 53 94 122 143	1.122	0.998
測定器 G 差圧式 2	弱 中 強	17.5 33.0 47.5	1.07 1.29 1.62	49.9 101.1 149.1	1.06 1.25 1.53	45.8 93.6 138.1	21.5 21.4 36.0	35.0 36.0 36.0	1003.6 1003.6 1003.6 1003.7	12.5 46 50 92 117 140	1.098	0.997
200 150 (VS®) 動樹 IL共和國報告	4				→ 測定器 A 日							
	50	100 真の風量(m3/	150 h)	200								

# 2-20 (表-16)

現理測定器 展量設定 設定周波数		品名 特性 k値 排気	KS0100 排気用 3.6										
無量制定器 無量数で 約定用液数 497(本庫 1924(無量 1924(無量 1924) 247(本庫 1924(無量 1924) 247(本庫 1924(無量 1924) 247(大庫	5月1000万円	19F 7X,		測定器記	· 置前	測定器	設置後				風量計測定值		
周度器 A 55 18-0 1.00 12-6 1.00 12-6 1.00 12-6 23-3 32-0 1008-5 - 51 1.08 1 1.08 1 50-7 1.07 50-3 23-3 33-0 1008-5 - 51 1.08 1 1.	1.量測定器	風量設定		オリフィス電圧	オリフィス風量	オリフィス電圧	オリフィス風量				圧力 風量	回帰直線	相関係数
無約式 中 33.0 1.29 100.8 1.26 100.0 23.3 32.0 1006.5 - 100 100 12.6 1.63 149.8 1.61 146.3 22.2 31.0 1006.5 - 148			0.0	1.00	12.6	1.00	12.6	23.3	32.0	1008.5	- 0		
強性 47.5 1.63 149.8 1.66 148.3 23.2 31.0 1006.5 - 149  脚定器 8 55 18.0 1.00 12.6 1.00 12.6 23.0 32.0 1001.7 - 45 0.0 1001.7 - 45 0.931 0.1 1001.7 - 45 0.0 1001												1.081	0.99
制定器 B 55 18.0 1.00 12.6 1.00 12.6 23.0 32.0 1006.5 - 0	発性 (特殊 エ)、												
<ul> <li>熱納式 中 33.0 1.29 100.8 1.29 100.6 23.1 32.0 1008.7 - 188</li> <li>強 47.5 1.63 149.8 1.62 149.2 23.1 32.0 1008.7 - 129</li> <li>測定器 0 0 0.0 1.00 12.6 1.01 13.0 21.6 37.0 998.8 - 0</li> <li>前 8.0 1.08 50.7 1.08 51.0 21.5 36.0 998.5 - 48 0.978 0.1</li> <li>熱納式 中 33.0 1.29 100.8 1.28 100.8 21.5 36.0 998.5 - 48 0.978 0.1</li> <li>対 1.00 12.6 1.01 13.0 21.6 38.0 998.5 - 48 0.978 0.1</li> <li>対 1.00 12.6 1.01 13.0 21.6 38.0 998.5 - 83 0.985 0.1</li> <li>対 1.00 12.6 1.01 13.0 21.6 38.0 998.5 - 83 0.0 998.5 - 93 0.0 998.5 - 83 0.0 998.5 - 83 0.0 998.5 - 83 0.0 998.5 - 83 0.0 998.5 - 93 0.0 998.5</li></ul>		0											
強 47.5 1.63 149.8 1.62 149.2 23.1 32.0 1008.7 - 129 1028 0 0 0.0 1.00 12.6 1.01 13.0 21.8 37.0 988.8 - 0 0 0.0 1.00 12.6 1.01 13.0 21.8 37.0 988.8 - 0 0 0.4 1.00 12.8 12.8 100.9 10.8 12.5 36.0 989.5 - 48 0.978 0.4 12.8 12.8 12.8 12.8 12.8 12.8 12.8 12.8		55										0.931	0.9
開空器 C	熱線式												
開定器 C 等日 18.0 1.08 50.7 1.08 51.0 21.5 38.0 998.5 - 48 0.978 0.4													
禁納式 中 33.0 1.29 100.8 1.29 100.9 21.5 36.0 998.5 - 94  強 47.5 1.63 149.8 1.63 150.0 21.6 37.0 998.5 - 136  別定器 F 表音 18.0 1.08 150.7 1.06 44.5 21.4 36.0 1005.1 12 45 1.096  別定器 F 表音 18.0 1.08 15.7 1.06 44.5 21.4 36.0 1005.1 12 45 1.096  利定器 G 音音 18.0 1.08 15.7 1.06 44.3 21.3 35.0 1004.2 113 138	測定器 6												0.9
接触 47.5 1.63 149.8 1.63 150.0 21.8 37.0 998.9 - 138												0.010	0.5
工学数   1.08	,												
日													
確している。 1.63												1.204	0.9
剛定器 E 5号 18-0 1.00 12-6 1.00 12-6 23-3 32-0 1008-8 - 2 1.060 0.5 1.060 0.5 1.060 0.5 1.08 50-7 1.08 51.0 23-3 32.0 1008-8 - 50 1.060 0.5 1.060 1	ロベラ式												
制定器 E 55 18.0 1.08 50.7 1.08 51.0 23.3 32.0 1008.8 - 50 1.060 0.5 1.06													
世口圧式 中 33.0 1.29 100.8 1.28 100.0 23.3 33.0 1008.8 - 88 47.5 1.63 149.8 1.62 148.7 23.4 34.0 1008.8 - 148 148 148.7 23.4 34.0 1008.8 - 148 148 148.7 23.4 34.0 1008.8 - 148 148 148.7 23.4 34.0 1008.8 - 148 148 148 148 148 148 148 148 148 148	則宝界 F											1.060	0.9
強強												1.000	0.0
別定器 F 58 18.0 1.08 50.7 1.06 44.5 21.4 36.0 1005.1 12 45 1.096 0.6 住民式1 中 33.0 1.29 100.8 1.24 92.6 21.5 36.0 1004.9 118 141 141		強											
巻任式 1 中 33.0 1.29 100.8 1.24 92.6 21.5 36.0 1005.0 45 87 47.5 1.63 149.8 1.52 137.5 21.5 35.0 1004.9 118 141 118 141 1 18 141 18 141 18 141 18 141 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18													
強 47.5 1.63 149.8 1.52 137.5 21.5 35.0 1004.9 118 141 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0												1.096	0.99
別定器 G 5号 18.0 1.08 50.7 1.08 44.3 21.3 35.0 1004.4 1 12 45 1.085 0.1 産圧式 2 中 33.0 1.29 100.8 1.24 92.2 21.3 35.0 1004.2 49 91 47.5 1.63 149.8 1.52 137.1 21.2 35.0 1004.2 113 138 200 無限定器 E 一 測定器 B 一 測定器 B 一 測定器 G 一 一 測定器 G 回 列	差压式 1												
別定器 G 5号 18.0 1.08 50.7 1.06 44.3 21.3 35.0 1004.1 12 45 1.085 0.1 を住民式 2 中 33.0 1.29 100.8 1.24 92.2 21.3 35.0 1004.2 49 91 1 13 138 200 200 200 200 200 200 200 200 200 20													
差圧式2 中 33.0 1.29 100.8 1.24 92.2 21.3 35.0 1004.2 49 91 1.63 149.8 1.52 137.1 21.2 35.0 1004.2 113 138 200 150 加定器 B - 加定器 B - 加定器 B - 加定器 C - 測定器 C - 測定器 C - 測定器 C	測定器 G											1.085	0.99
200    →   測定器 A   →   測定器 B   →   測定器 B   →   測定器 E   →	差圧式 2	中											
→ 測定器 A → 測定器 B → 測定器 D → 測定器 E → 測定器 G ← 一 一 測定器 G ← 一 一 測定器 G ← 一 一 測定器 G ← 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一		強	47.5	1.63	149.8	1.52	137.1	21.2	35.0	1004.2	113 138		
	150 (Veu)中國   100					■ 測定器 B  Δ 測定器 D  → 測定器 E  - 测定器 F  測定器 G							

## 表2-21 (表-17)

送風機方向	品名 特性 k値 排気	URH100 排気用 3.6	E										
医風滅 万円 風量測定器	風量設定	設定周波数	測定器: オリフィス電圧	オリフィス風 量	オリフィス電圧	設置後 オリフィス風量	温度	湿度	気圧	風量計測定値 圧力 風		回帰直線	相関係数
測定器 A 熱線式	0 弱 中 強	Hz 0.0 17.5 33.0 47.5	1.01 1.07 1.29 1.62	m3/h 12.9 49.6 100.8 149.3	1.00 1.07 1.28 1.61	m3/h 12.5 49.0 100.0 148.2	°C 23.5 23.4 23.4 23.5	94.0 34.0 34.0 34.0 34.0	Pa 1009.1 1009.2 1009.2 1009.2	pam3/ - - -	0 49 100 150	1.089	0.99
測定器 B 熱線式	0 弱 中 強	0.0 17.5 33.0 47.5	1.01 1.07 1.29 1.62	12.9 49.6 100.8 149.3	1.00 1.07 1.29 1.62	12.5 49.2 100.3 148.7	23.4 23.4 23.3 23.3	34.0 33.0 34.0 34.0	1009.2 1009.3 1009.3 1009.3	- - - -	0 44 91 129	0.939	0.99
測定器 C 熱線式	0 引 中 強	0.0 17.5 33.0 47.5	1.01 1.07 1.29 1.62	12.9 49.6 100.8 149.3	1.01 1.07 1.29 1.63	12.9 49.2 101.0 150.0	21.6 21.4 21.4 21.4	37.0 37.0 37.0 37.0	998.6 998.6 998.6 998.7	- - -	0 46 93 139	0.996	0.99
測定器 D ブロベラ式	0 弱 中 強	0.0 17.5 33.0 47.5	1.01 1.07 1.29 1.62	12.9 49.6 100.8 149.3	1.00 1.07 1.26 1.56	12.6 46.8 96.7 142.0	23.4 23.4 23.4 23.4	34.0 34.0 34.0 34.0	1009.4 1009.4 1009.4 1009.4	- - -	0 56 108 160	1.206	0.99
測定器 E ゼロ圧式	0 55 中 強	0.0 17.5 33.0 47.5	1.01 1.07 1.29 1.62	12.9 49.6 100.8 149.3	1.00 1.07 1.29 1.62	12.8 49.0 100.5 149.0	23.3 23.3 23.3 23.3	34.0 34.0 34.0 35.0	1009.4 1009.5 1009.5 1009.4	- - -	3 48 100 148	1.054	0.99
測定器 F 差圧式 1	0 55 中 強	0.0 17.5 33.0 47.5	1.01 1.07 1.29 1.62	12.9 49.6 100.8 149.3	1.01 1.06 1.25 1.54	13.0 45.7 94.1 139.8	21.3 21.4 21.4 21.5	36.0 35.0 35.0 35.0	1005.4 1005.2 1005.2 1005.1	0 13 54 114	0 47 95 138	1.074	0.99
測定器 G 差圧式 2	0 弱 中 強	0.0 17.5 33.0 47.5	1.01 1.07 1.29 1.62	12.9 49.6 100.8 149.3	1.01 1.06 1.25 1.54	13.2 45.8 94.2 139.9	21.5 21.5 21.5 21.5	35.0 35.0 35.0 35.0	1005.0 1005.0 1005.0 1005.0	0 12 52 120	0 45 93 1 42	1.101	0.99
200 150	50	100	150		● 測定器 A B 测定器 B A 测定器 B C N 测定器 C N N N N N N N N N N N N N N N N N N								

表2-22 (表-18)

	品名 特性 k値	SPI100 3.6										
送風機方向	排気		測定器部	置前	測定器	0置後				風量計測定值	T	
1.量測定器	風量設定	設定周波数 Hz	オリフィス電圧 V	オリフィス風量 m3/h	オリフィス電圧 V	オリフィス風量 m3/h	温度	湿度 %	気圧 Pa	圧力 風量 pa m3/h	回帰直線	相関係数
測定器 A 熱線式	0 弱 中	0.0 18.0 33.7	1.01 1.07 1.28	13.4 50.3 100.2	1.01 1.08 1.28	13.1 50.9 99.8	23.4 23.5 23.5	32.0 31.0 31.0	993.5 993.4 993.4	- 1 - 5 - 101	1.071	0.99
則定器 B 熱線式	<u>強</u> 0 弱 中 強	49.2 0.0 18.0 33.7 49.2	1.63 1.01 1.07 1.28 1.63	149.9 13.4 50.3 100.2 149.9	1.63 1.01 1.07 1.28 1.62	149.6 13.1 50.5 99.8 149.5	23.4 23.5 23.5 23.5 23.6	31.0 31.0 31.0 31.0 32.0	993.4 993.3 993.2 993.2 993.2	- 141 - 41 - 91 - 131	0.975	0.99
測定器 C 熱線式	0 弱 中 強	0.0 18.0 33.7 49.2	1.01 1.07 1.28 1.63	13.4 50.3 100.2 149.9	1.00 1.08 1.28 1.62	12.5 50.8 99.7 149.0	23.8 23.9 23.8 23.8 23.9	32.0 33.0 33.0 32.0	992.8 992.8 992.8 992.8		0.995	0.99
測定器 D ブロベラ式	0 弱 中 強	0.0 18.0 33.7 49.2	1.01 1.07 1.28 1.63	13.4 50.3 100.2 149.9	1.00 1.07 1.26 1.57	12.5 48.2 95.7 143.4	23.6 23.6 23.6 23.6	32.0 32.0 32.0 32.0	993.2 993.1 993.1 993.1	- 1 - 6 - 111 - 16;	1.209	0.99
測定器 E ゼロ圧式	0 弱 中 強	0.0 18.0 33.7 49.2	1.01 1.07 1.28 1.63	13.4 50.3 100.2 149.9	1.00 1.07 1.28 1.62	11.9 50.6 100.1 149.3	23.7 23.7 23.7 23.7	32.0 32.0 32.0 32.0	993.1 993.1 993.0 992.9	- 1 - 5 - 10: - 15	1 1.051	0.99
測定器 F 差圧式 1	0 引 中 強	0.0 18.0 33.7 49.2	1.01 1.07 1.28 1.63	13.4 50.3 100.2 149.9	1.01 1.08 1.29 1.63	13.0 50.7 100.3 149.9	23.9 23.9 23.9 24.0	32.0 32.0 33.0 33.0	992.8 992.8 992.8 992.7	16 5: 62 10: 133 14:	2	0.99
測定器 G 差圧式 2	0 弱 中 強	0.0 18.0 33.7 49.2	1.01 1.07 1.28 1.63	13.4 50.3 100.2 149.9	1.00 1.08 1.28 1.63	12.5 51.1 100.1 149.8	23.9 24.0 24.0 23.9	33.0 33.0 33.0 32.0	992.7 992.6 992.6 992.7	0 1 15 51 59 101 138 15:	1.095	0.99
200			Å		● 測定器 A B N N N N N N N N N N N N N N N N N N							

#### (3) まとめ

# ① 風量測定器の精度確認

オリフィスによる風量と、風量 測定器の値の回帰直線から求め た平均誤差を図2-20に示す。

図中正の値は、風量測定器の 表示が過大表示されていること を示している。

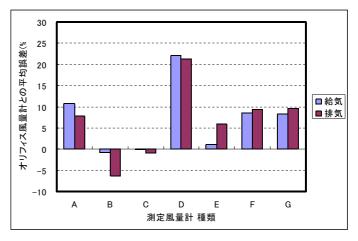


図2-20 オリフィス風量計との平均誤差

A~C: 熱線式、D: プロペラ式 、E: ゼロ圧式、F、G: 差圧式

Dのプロペラ式を除き、そのほかの風量計は概ね10%程度の誤差範囲に収まっていることが確認できた。

F、Gの圧力式については、端末部材に表示されているK値の誤差により、風量測定結果に影響している可能性もある。

### ② 風量測定器の測定時抵抗

風量測定器の設置前後における オリフィス風量の変化から、風 量測定器による測定時の低下率 を求めた。

図2-21に結果を示す。

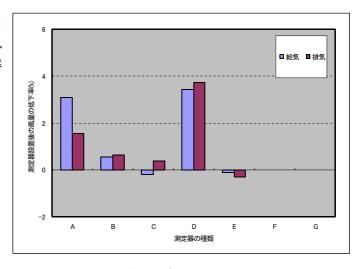


図2-21 風量低下率

 $A\sim C:$  熱線式、D: プロペラ式 、E: ゼロ圧式、F、G: 差圧式

Dのプロペラ式が抵抗が大きいことが確認された。

今回の試験では、配管途中に設置したダンパーの差圧から風量を測定したため、測定器が 抵抗とならないことから、低下しない結果となった。

# 4. 内部空間からの汚染物質侵入に関する実態調査(戸建て住宅)

### (1) 内部空間からの汚染物質侵入の考え方

天井裏等の構造内部空間や収納内部等の付帯空間(以下、内部空間とする。)から居住空間 に汚染物質が侵入することよって、室内濃度が上昇する場合がある。

天井裏等の構造内部空間には、天井裏、小屋裏、床下、外壁及び間仕切壁などがあり、付帯空間には押し入れ、収納などが想定される。

図2-22は、外壁の場合の概念を示すが、ホルムアルデヒドやVOCが発生する建材や施工材が 使用される場合や収納内に同様の汚染物質を発生する生活用品などの収納物がある場合に、そ れらが隙間通気によって室内に侵入すると室内濃度を上昇させる。

内部空間で発生する汚染物質の挙動について、次のような性質があると考えられる。

- ① 内部空間が完全に密閉されている場合、室内に侵入することが無く、内部空間は高濃度に持続される。
- ② 室内との間に隙間があると、隙間通気に伴って汚染物質が室内に侵入する危険性がある。 その侵入について次の性状がある。
  - ・内部空間の密封性が高いと、流入空気濃度は高くなる。
  - ・室内との間の隙間量が大きいと、流入空気量が大きくなる。
  - ・室内との間の隙間の内外差圧によって流入の有無及び流入量が左右される。 (換気方式、建物気密性能、建物構造種別、室内温度、気象条件などが、隙間の内外差圧 に影響する。)
- ③ ホルムアルデヒドのように、温度依存性、吸脱着の影響がある物質の場合には、それらが流入空気濃度に影響する。

本測定では、以下に示す侵入率 κ の測定を行う。内部空間、室内及び外気との相互通気について、最も簡単な 2 空間の場合を図2-23に示す。以下に示すように、室内濃度は、図2-23に示す6つの相互通気量と内部空間と室内での発生量、外気濃度のすべての影響を受ける。

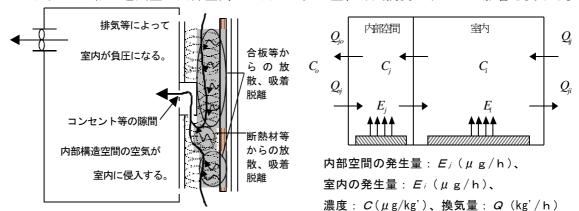


図2-22 天井裏等の内部空間からの汚染物質侵入

図2-23 内部空間と室内の2空間モデル

 $C_o \cdot Q_{oj} + E_j + C_i \cdot Q_{ij} - C_j \cdot (Q_{ji} + Q_{jo}) = 0 \cdot \cdot \cdot$ 数式 1  $C_o \cdot Q_{oi} + E_i + C_j \cdot Q_{ji} - C_i \cdot (Q_{ij} + Q_{io}) = 0 \cdot \cdot \cdot$ 数式 2

この場合の内部空間及び室内の汚染物質収支はそれぞれ以下のようになる。

外気濃度:  $C_0 = 0$  の場合、以上を連立させると室内濃度:  $C_1$  は次のようになる。  $C_i = (Q_{ji} \cdot E_{j} + (Q_{ji} + Q_{jo}) \cdot E_i) / ((Q_{ji} + Q_{jo}) \cdot Q_{io} + Q_{jo} \cdot Q_{ij}) \cdot \cdot$ 数式 3 内部空間での汚染物質発生が無い場合の室内濃度: C','は、上式に E, =0を代入して次の ように得られる。  $C_i' = (Q_{ii} + Q_{io}) \cdot E_i / ((Q_{ii} + Q_{io}) \cdot Q_{io} + Q_{io} \cdot Q_{ij}) \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot$ 数式 4 内部空間からの汚染物質侵入がある場合には、室内の発生量が見かけ上増大することになる。 見かけの発生量を  $E_i$ とし、侵入率  $\kappa$ を用いて次のように表現する。  $E_i' = E_i + \kappa \cdot E_J$  · · · · · · · · · · · · · · · 数式 5 侵入率 κ は、内部空間での発生量: Ε / に対する侵入による見かけの室内発生量増加量の比 を意味する。 数式40  $E_i$  を数式5の右辺に置き換えると、次のようになる。  $C_i' = (Q_{ji} + Q_{jo}) \cdot (E_i + \kappa \cdot E_j) / ((Q_{ji} + Q_{jo}) \cdot Q_{io} + Q_{jo} \cdot Q_{ij})$  · · 数式 6 数式3と数式6から、侵入率κは次のようになる。 上式に示すように、侵入率κは、内部空間からの総流出空気量に対する内部空間から室内 への流入空気量の比と一致する。 侵入率: κ は次のような方法で測定することが出来る。 はじめに、室内の換気量測定について以下の配慮が必要となる。トレーサーガス一定発生法 によって、トレーサーガス発生量:  $e_i$ 、換気量:  $Q_i$  とすると、安定濃度:  $C_i$  は一般に 次のように得られる。 しかし、上記の換気量は、内部空間との相互換気を無視した場合の結果である。 内部空間との相互換気を考慮すると、数式4と同様に考えて、安定濃度は次のようになる。  $C_i = (Q_{ji} + Q_{jo}) \cdot e_i / ((Q_{ji} + Q_{jo}) \cdot Q_{io} + Q_{jo} \cdot Q_{ij})$  · · · · · · · 数式 9 数式8及び数式9より、次式が得られる。 数式10において、右辺第2項が右辺第1項に比べて十分に小さい場合には、一定発生法に よる換気量測定結果に対して内部空間の影響を無視することが出来る。 上述のように得られた換気量: Qi を用い、さらに、天井裏等の構造内部空間でトレーサ 一ガスを一定発生:  $e_{\perp}$  させ、室内濃度:  $C_{\perp}$ を測定して、侵入率:  $\kappa$  を次式で求める。 侵入率κを用いると、一般的に室内濃度を次のように表すことができる。 内部空間の発生量を  $E_i$ とし、室内の発生量を  $E_i$ とする。また、家具等の発生量を  $E_f$ とすると、室内濃度の要因となる発生総量  $E_t$  は、以下のようになる。 従って、室内の換気量を  $Q_i$ とすると、居住空間(室内)濃度:  $C_i$  は次のようになる。 

### (2) 測定対象建物と測定状況

測定対象建物は、 $2"\times 4"$ (延床面積101.5m<sup>2</sup>)と在来木造(延床面積122m<sup>2</sup>)による戸建住宅である。

建物完成後入居前の状況で、家具及び収納物が無い状態で測定を行った。

なお、測定は自然室温で行った。

### ①気密性能(相当隙間面積)の測定

給気ファンはシャッター閉、排気ファン(トイレ、洗面所、浴室)目張り、厨房レンジファンシャッター閉、排水口目張り、各部屋の内部建具開の状態で、居間掃き出し窓に排気ファンを設置して相当隙間面積の測定を行った。

### ②内外差圧等の測定

各換気設定において、外気に対する室内の差圧を測定期間内に常時測定した。差圧は1分間隔で測定記録し、測定期間の平均差圧を算出した。

### ③換気量及び侵入率 κ の測定

トレーサーガスとしてSF6とR22を用いた。建物全体の換気量を測定するために、SF6を各部屋で分散して発生させ、R22を天井懐(1・2 階間階間)などの内部空間内で発生させて、各排気ファンのある部屋の排気ファン近傍から多点混合採集して、マルチガスモニター(INNOVA社製)によってトレーサーガス濃度を5分間で測定記録した。

内部空間へのR22供給は、例えば天井懐の場合には、写真2-9に示すように1階のほぼ中央に位置するダウンライトを取り外して、チューブを差込むことで経路を確保した。

また、チューブ周囲は完全に目張りを行った。





写真 2-9 天井懐へのトレーサーガス供給状況



写真 2-8 トレーサーガスの発生器と濃度測定器



写真2-10 排気口での空気採集(1Fトイレ)

### (3) 測定結果

図2-24に、内外差圧の測定及び侵入率  $\kappa$  の測定結果を示す。内外差圧は、相当隙間面積が  $4.1 \, \mathrm{cm}^2/\mathrm{m}^2$  の在来木造の場合の方が、相当隙間面積が  $2.5 \, \mathrm{cm}^2/\mathrm{m}^2$  の  $2^* \times 4^*$  の場合よりも低い傾向がある。これは、機械換気に伴って発生する隙間通気によって、内外差圧が低下したことを示している。また、 $2^* \times 4^*$  住宅において厨房レンジファンを運転した場合に室内が最も負圧となった。

侵入率  $\kappa$  は、実験開始から5時間程度以降のトレーサーガス安定濃度を用いて、式11により求めた。

全体を通じて、室内が負圧になるほど、侵入率  $\kappa$  は100%に近づく傾向を示した。 部位別では、2"×4"住宅において、天井懐(1・2階間の階間)の侵入率  $\kappa$  が最も高かった。 また、屋根裏や床下も屋内が負圧になる場合(第3種常時換気時と第1種常時換気+レンジファン)に、0 ではなく侵入が発生したことを示した。

第1種換気時の内外差圧は、両対象建物において+0.05mmAqとなり、室内が若干正圧となった。室内が正圧の場合には、侵入が発生しずらいと考えられ、 $2" \times 4"$  の床下と屋根裏では、侵入率  $\kappa$  は0 となったが、天井懐( $1 \cdot 2$ F階間)の侵入率  $\kappa$  は0 ではなく、侵入が発生したことを示した。この部位は、上下を室内空間に挟まれており、侵入が発生しやすいが、測定結果においても侵入に関する要注意部位であることが確認された。

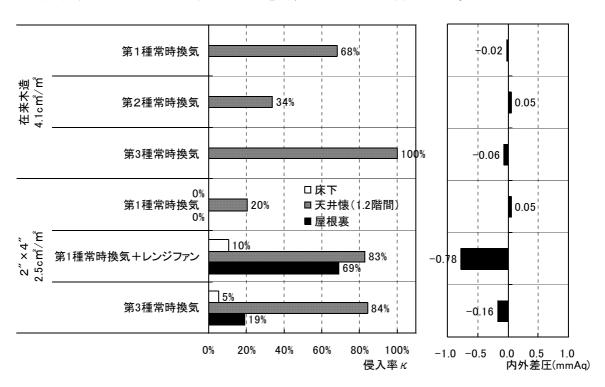


図2-24 侵入率 κ と内外差圧の測定結果

# 5. 天井裏等の建物内部空間からの汚染物質の室内侵入に関する研究

### (1)研究方法の検討

既往の研究(国土交通省総合技術開発プロジェクト「シックハウス対策技術の開発」)に おいて天井裏等の内部空間からの汚染物質の侵入程度を示す指標として侵入率  $\kappa$  <sup>付</sup>が提案された。

この指標は、各内部空間における汚染物質発生量に対する室内への侵入量の比を示す。

また、同研究において部分構造モデルや実験住宅及び一般住宅における侵入率の測定が行われ、1・2階間の天井懐からの侵入率が高い傾向があると共に、第3種換気運転時などの屋内の気圧が外気よりも低くなる場合に侵入率 κ が高くなる傾向があることが示されている。

また、2003年度の改正建築基準法においては、天井裏等における建材規制、換気における 配慮、通気止めなどの侵入防止対策が挙げられた。

しかし、天井裏等からの侵入の状況は、換気方式、建物構法、気密性能、内外温度差、風 向風速(以下は、影響要因と呼ぶ)に影響されると共に、上記の対策の程度に左右されると 考えられ、実態及び対策の効果に関する検証が重要な課題となっている。

はじめに侵入程度に影響する上記の要因に関する検討が必要であるが、これまでの研究「シックハウス対策技術の開発」においては、ホルムアルデヒド及びVOCの侵入が存在すること、3件の住宅における侵入率の測定結果のみが明らかにされているのみで、要因分析は行われていない。

ただし、温熱・換気・濃度シミュレーションによる検討において、使用建材の放散レベルが室内濃度に与える影響に関する検討は行ったが、内部空間と室内、内部空間相互の隙間分布や通気性状に関するデータが極めて少ないため仮定に基づく検討しか出来ていない。

内部空間からの侵入実態を把握するためには、実建物において測定可能な侵入率 κ の測定を行って、影響要因に関する分析を行うと共に、影響のメカニズムを明らかにする必要がある。特に侵入対策の効果を確認するためには、このメカニズムの把握が不可欠となると考えられる。

本研究では、侵入の経路と量を決定する隙間回路(室内と内部空間、内部空間相互、室内相互の隙間)を把握すると共に、換気回路網計算、温熱計算、濃度計算等の技術を活かすことで、上記要因の影響程度及び対策効果を明らかにすること目的としている。

この隙間回路を明らかにする方法として、スライスモデルを提案する。例えば、内部空間の一つである外壁を見ると、一般断面で示される部分以外に出隅、入隅など、3次元で表現すべき部位が多数あり、それらの部分も隙間回路の要素となる。

また、各内部空間は縦横に連結されており、実際の建物における隙間回路は非常に複雑である。従って、隙間回路に含まれるすべての隙間量(通気率、N値)を測定することは困難である。

そこで、建物を2次元で捕らえて、隙間回路に含まれるすべての隙間を測定するためのスライスモデルを作成することとした。

なお、2次元で測定された単位長さ当たりの隙間量(例えば、間仕切り  $1 \, \mathrm{m}$  当たりの隙間量など)を用いることで、実際の建物における隙間回路を想定することで、3次元表現が必要な部位の隙間経路を無視した場合の侵入経路及び侵入率  $\kappa$  が再現されることになる。

この結果を、侵入率 κ の実測値と比較することで、再現性に関する検証が可能となる。

### (2) スライスモデルの設計

スライスモデルは、我国における最も一般的な構法である在来軸組構法によった。また、 戸建住宅における室内及び内部空間の連結状況を図2-25のようにモデル化した。なお、室内 及び内部空間を以後セルと呼ぶ。

スライスモデルは、奥行き1m程度、高さ3m程度、巾4m程度の外形として、前面及び背面には透明版を用いて、透明版と切断部の間は完全に気密化した。

実建物における内部空間相互の通気性状が再現されるように適切な部位が組み込まれるように設計した。

室内及び内部空間には、チューブ及び攪拌用のファンなどを設置しておくと共に、透明版 面にはスリーブを複数設けてファンによる加減圧が任意に可能なようにした。

実験モデルは、外気を含めた16セルのモデルとした。

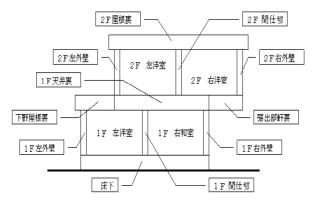


図 2-25 内部空間相互の連結状況のモデル化

各セルのスライス面には、ファン用の開口( $50\phi$ )1個とダクトを連結する開口( $100\phi$ )2個を設けた。ただし間仕切りや外壁については可能な範囲で大きな開口を設けた。

この開口にダクトを連結して複数のセルを同圧に出来るようにした。ダクト間及び開口との間はアルミテープなどで気密連結出来るようにした。

また、ファンについても同様に簡便に着脱できるようにした。



写真2-11 本体完成時



写真2-12 スライスモデル外観

### (3)隙間回路の測定方法

スライスモデルでは、以下の同圧法で、各セル間の隙間量を測定する。隙間量を表す指標として、通気率とN値を用いる。

例えば4つのセルの場合に、セルAーセルB間の通気率(有効開口面積)、N値を求める場合には、次の手順で測定する。

- ・セルBを外部に開放して、気圧を基準圧と同じにする。
- ・セルAに給気して、セルA内の気圧を高くする。
- ・セルC、D、Eにも給気して、セルA内と同じ気圧にする。(各セルにファンで給気するか、 一箇所に給気して、その他のセルと給気するセルとの間に通気抵抗が無視できる程度の通 気経路を設ける。)
- ・セルAへの給気量をソレーサーガス法などによって測定する。
- ・以上の方法で、セルAとセルBの気圧差と風量を5点以上測定する。
- ・上記の測定結果から、通気率(有効開口面積)、N値を求める。

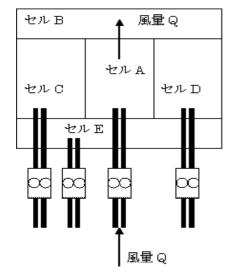




図 2-26 同圧法による通気率、 N値の測定方法

写真2-13 分配ダクトと可変通気抵抗を用いた方法

## ① セルの気圧の調整方法

各セルの気圧を見ながら給気量を、給気経路の通気抵抗及びファンの電力供給量によって調整する。写真4は各セルにファン(定格 $40\,\mathrm{m}^3/\mathrm{h}$ )と可変通気抵抗を $1\,\mathrm{F}$ 右和室に直接接合した場合である。同様に他の3室についてファンと可変通気抵抗を連結した結果、 $4\mathrm{室}$ の気圧は $2.5\,\mathrm{mmAq}$ まで確保できた。

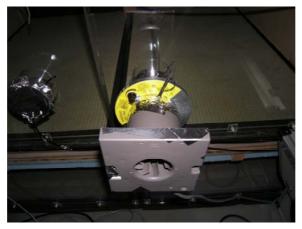


写真2-14 ファンと可変通気抵抗

### ② 給気量の測定方法

各セルへの給気量(外気導入量)は、トレーサーガス法で測定することが出来る。 トレーサーガス法として、一定発生法、一定濃度法、減衰法のいずれの方法も利用可能である。 一定発生法及び減衰法では、図2-26 におけるセルA内又は給気経路で発生させて、セルA内 の濃度を測定する。

発生量と濃度からセルAへの給気量が換算される。また、他のセルでトレーサーガスが検出

されないことで、同圧化が達成していることを確認する。

一定濃度法では、各セルへの外気導入量がそれぞれ得られるため、セルAへの外気導入量も得られることになる。

写真2-15は、トレーサーガスの発生及び 濃度測定を行うシステム(INNOVA社製マルチ ガスモニターとサンプリング&ドーザー) である。



写真2-15 トレーサーガス法による給気量測定

### (4)総隙間量の測定

本報告では、4つの部屋を対象に、それぞれの部屋と外気の間の隙間量を測定した結果を 示す。同圧化は、写真2-14 に示す各室にファンと可変通気抵抗を設置する方法によった。

給気量は、トレーサーガス一定濃度法 (SF6) によった。4つの部屋の気圧が同じになるように調整した後に、一定濃度法で各室への給気量(外気導入量)を測定した。

気圧を5段階に変えて測定を行って、差圧と流量の関係を測定して通気率、N値、相当隙間面積を求めた。

図2-27は、トレーサーガス濃度と発生量の平均値から得た給気量と内外差圧の関係を示す。 各室の分布は両対数のグラフ上で大略直線状に分布した。

この結果から相当隙間面積を換算した結果を表2-23に示す。

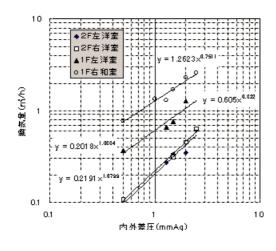


図 2-27 内外差圧と給気量(換気量)の関係

各室の相当隙間面積は、0.14~0.88と非常に小さく、その中では1F右和室が最も大きかった。 前述の同圧化の試行において、気圧の確保が難しかった内部空間と比較すると、室内と内部空間の間の層(内装面に沿った層)の気密性が非常に高くなっていることが明らかとなった。

実際の住宅においては、この内装面にコンセントやスイッチなどの隙間発生の原因となる部位がある。スライスモデルにはこれらの隙間要因が設定されていないことが、今回の測定結果の原因であると考えられる。今後、コンセントやスイッチなどの内装面の隙間要因に関する隙間量の設定や測定について検討が必要であると考えられる。

丰.	Ω.	- 2	9	測	$\div$	久	<i>∖</i> <del>/   -</del>	دا	川田	<del>+</del>	纽	田
衣		- 4 ,	J	伿川	炡	*	144	$\sim$	伿川	Æ	<b>氷口</b>	$\overline{}$

差 圧 (mmAg)	2 F 左 洋 室	2 F 右 洋 室	1 F 左 洋 室	1 F 右 和 室
2.0	0.3	0.5	1.3	2.3
2.5	0.6	0.6	0.0	2.6
1.5	0.3	0.3	0.8	1.7
0.5	0.0	0.1	0.4	0.8
1.3	0.3	0.0	0.7	1.3
相 当 隙 間 面	0.14	0.15	0.42	0.88
積 ( c m² / m² )				
N 値	1.0	1.0	1.22	1.33

#### (5) 今後の予定

以後、各セル間の通気性状の測定、各種換気時の内部空間からの侵入率 $\kappa$ の測定を行うと共に、これらの測定データに基づく、実建物における侵入状況の数値実験を行い、侵入に関する詳細な実態把握を行う。